

平成29年3月22日(水)  
平成28年度 第9回  
大阪府河川整備審議会

参考資料7

# 淀川水系神崎川ブロック河川整備計画 (変更原案)について

## 住民説明会

平成29年3月14日(火) 14時～  
三島府民センター4階第1会議室

平成29年3月15日(水) 19時～20時30分  
池田市役所 5階大会議室

# 1. 河川整備計画とは

## 【河川整備計画とは】

- 河川整備基本方針に基づき、概ね20～30年間で計画的に行う河川の整備や管理に関する具体的な目標や内容を定めたもの。

## 【河川整備基本方針とは】

- 河川整備基本方針とは、将来の川のあるべき姿や河川整備の長期的な基本となる方針（治水・利水・環境）を定めたもの。

※河川法により、河川管理者は河川整備基本方針・河川整備計画を定めることとされている。  
神崎川ブロックでは、H25年8月に河川整備計画を策定。

## 2. 神崎川ブロック河川整備計画の変更にあたって

### ■神崎川ブロック河川整備計画の策定(H25.8月)

- ・ 神崎川ブロックの河川整備の当面の目標を定めたもの。
- ・ 計画対象期間：概ね15年

- ・ H22年に大阪府が策定した「今後の治水対策の進め方」に基づき、治水目標、治水計画の見直しを行ったこと

など

■神崎川ブロック河川整備計画（変更）の策定を行う。

## 2. 神崎川ブロック河川整備計画の変更にあたって

### 神崎川ブロック河川整備計画の主な変更点

- 「今後の治水対策の進め方」に基づき、治水・利水・環境の取り組みを見直し
- 各河川の当面の治水目標を新たに設定
  - ⇒ 神崎川、上の川、安威川は現計画を踏襲。
  - ⇒ 天竺川・兎川、高川、山田川・正雀川・正雀川分水路、大正川、箕川においては、時間雨量80ミリ程度の降雨による床上浸水を防ぐことを当面の治水目標とする。
- 上記、治水目標の達成に向け、洪水対策を見直し
- 計画対象期間を変更
  - ⇒ 概ね15年から概ね30年に変更

## 2. 神崎川ブロック河川整備計画の変更にあたって

### 河川整備計画の策定フロー

河川整備計画（変更原案）

← 学識経験者からの意見

大阪府河川整備審議会※（および治水部会など）  
において審議

← 住民の皆様からのご意見

本日

内容の説明およびご意見の聴取

河川整備計画（変更原案） 住民の皆様のご意見を反映し修正したもの

河川整備審議会にて了承の場合

河川整備計画（変更案）

← 地方公共団体の長の意見

← 国土交通省の同意・認可

河川整備計画 策定

### 3. 大阪府の新たな治水対策の考え方

#### 今後の治水対策の進め方（H22.6策定）

【基本的な理念】 人命を守ることを最優先とする。

【取組み方針】

- (1)現状での河川はん濫・浸水の危険性に対する府民の理解を促進する。
- (2)「逃げる」「凌ぐ」施策を強化するとともに、「防ぐ」施策を着実に実施する。
- (3)府民が対策の効果を実感できる期間（概ね10年）で実現可能な対策及び実施後の河川はん濫・浸水の危険性をわかりやすく提示する。

【当面の治水目標（今後20～30年）の設定】

○時間雨量50ミリ程度※1の降雨で床下浸水を発生させない。かつ、少なくとも時間雨量65ミリ程度の降雨で床上浸水を発生させない。

【河川情報の提供】

○住民が的確に避難行動がとれるよう、河川氾濫や浸水に対する情報提供に努める。

※1 時間雨量50ミリ程度の降雨は、10年に一度発生する恐れがある降雨

※2 時間雨量65ミリ程度の降雨は、30年に一度発生する恐れがある降雨

#### 将来目標（長期計画）

○府管理の全河川について、時間雨量80ミリ程度※3の降雨でも、川があふれて、家が流され、人がなくなるようなことをなくす。

※3 時間雨量80ミリ程度の降雨は、100年に一度発生する恐れがある降雨

### 3. 大阪府の新たな治水対策の考え方

地先の危険度  
低減に向けた

総合的・効果的な治水手法の組合せ

流出抑制

雨が降っても河川へ出る水量を減らす。  
(家庭での貯留施設の設置やため池の治水活用など)

治水施設の保全・整備

河川堤防の決壊によるはん濫をできるだけ回避するなど、  
河川を流れる水は可能な限りあふれさせない。  
(河川改修・堆積土砂除去など)

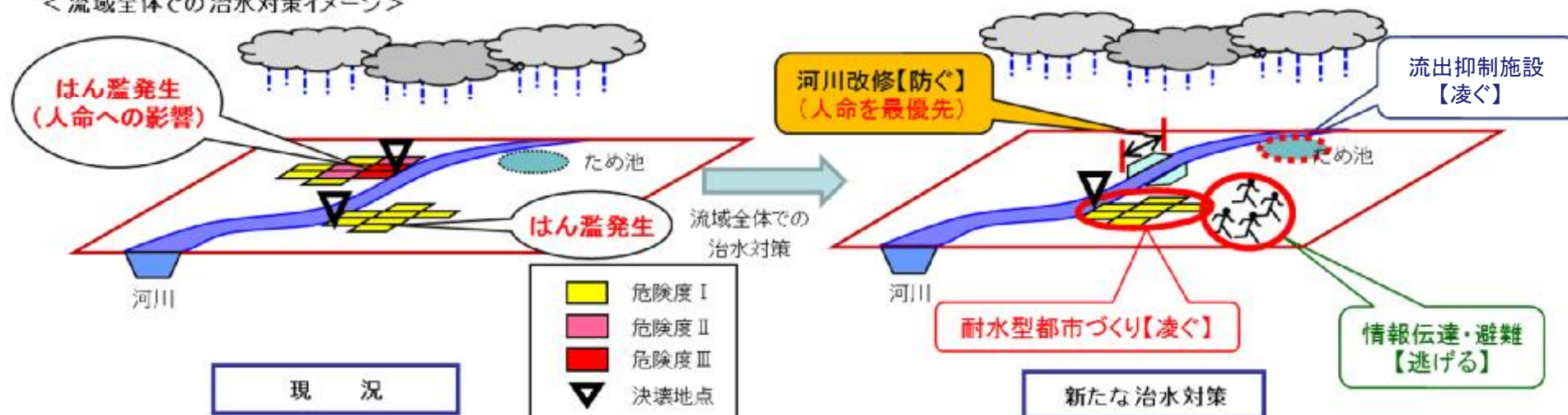
耐水型都市づくり

河川からあふれても被害が最小限となる街をつくる。  
(家屋の耐水化・高床化などの促進)

情報伝達・避難

河川からあふれそうなときはできるだけ早く逃げる。  
(洪水はん濫・浸水による危険性の周知、流域市と連携した避難体制づくりの促進など)

<流域全体での治水対策イメージ>



# 4. 神崎川ブロック河川整備計画(変更原案)の内容について

## 第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

第2節 河川整備の現状と課題

第3節 流域の将来像

第4節 河川整備計画の目標

1. 洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する目標
2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標
3. 河川環境の整備と保全に関する目標
4. 河川整備計画の計画対象区間
5. 河川整備計画の計画対象期間
6. 河川整備計画の適用

## 第2章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

第2節 河川維持の目的、種類及び施工の場所

## 第3章 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

第1節 地域や関係機関との連携に関する事項

第2節 河川情報の提供に関する事項



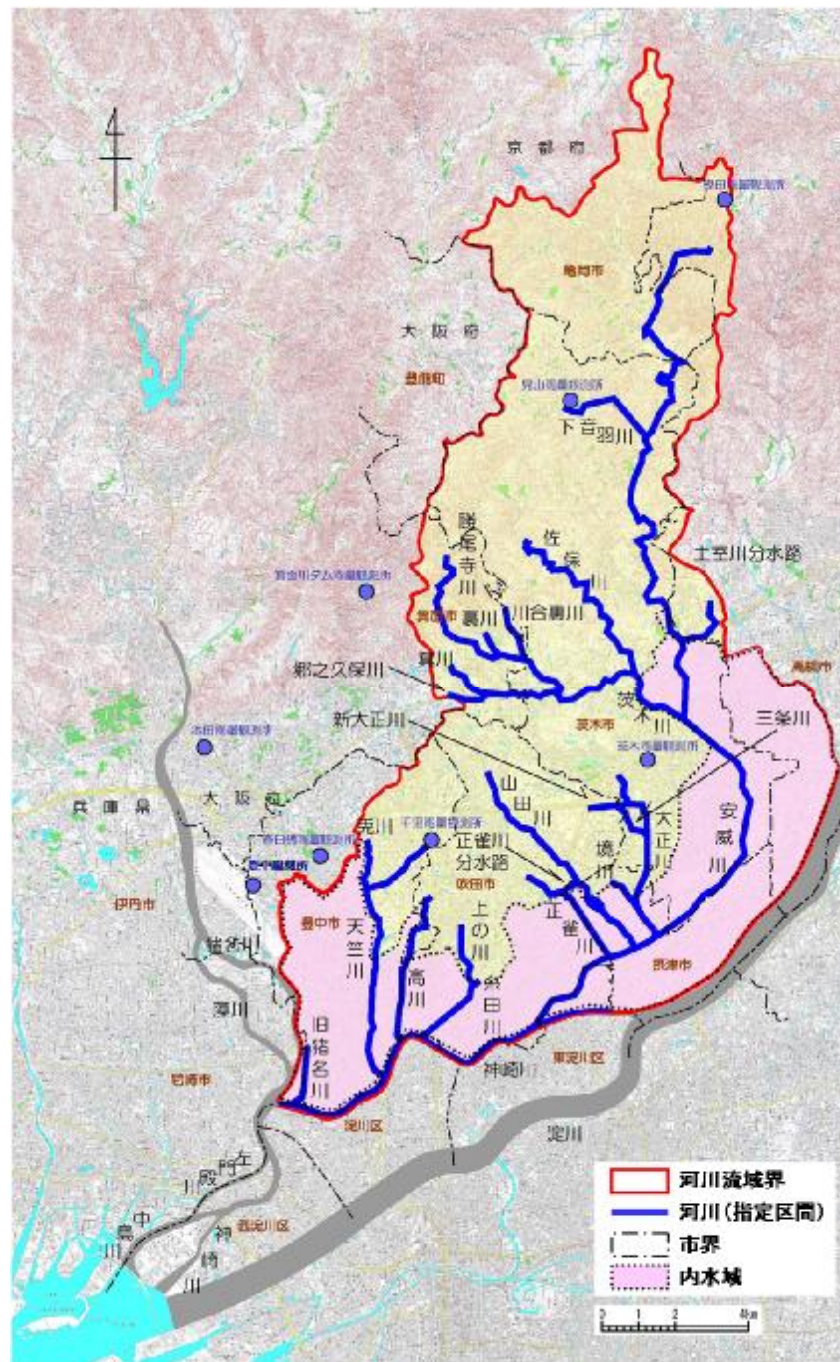
## 5. 流域の概要

淀川水系神崎川ブロックは、猪名川合流点より上流の神崎川及びその支川から構成されます。

流域面積は208.1km<sup>2</sup>となっており、神崎川流域と当ブロックで最大の支川である安威川流域に大別でき、大阪府全体を地域分割した場合の豊能地域と三島地域にまたがって位置しています。また流域の下流部は地盤標高が出水時の河川の水位より低いため溜まった雨水を河川に自然放流できない内水域となっており、全体の約3割(65.3km<sup>2</sup>)を占めています。

流域に関連する大阪府域の自治体は大阪市(西淀川区、淀川区、東淀川区)、豊中市、吹田市、摂津市、茨木市、高槻市、箕面市、豊能町の7市1町です。

河川名	延長(km)	河川名	延長(km)
神崎川	11.4	境川	1.0
旧猪名川	1.4	三条川	1.7
天竺川	7.6	新大正川	1.1
兔川	1.5	茨木川	2.1
高川	4.3	佐保川	6.8
糸田川	2.3	勝尾寺川	9.6
上の川	1.8	箕川	3.8
安威川	28.2	郷之久保川	0.9
正雀川	3.5	川合裏川	2.2
正雀川分水路	0.5	裏川	0.8
山田川	7.4	土室川分水路	1.1
大正川	5.3	下音羽川	3.2



# 6. 神崎川ブロックの現状

大正川 茨木市沢良宜



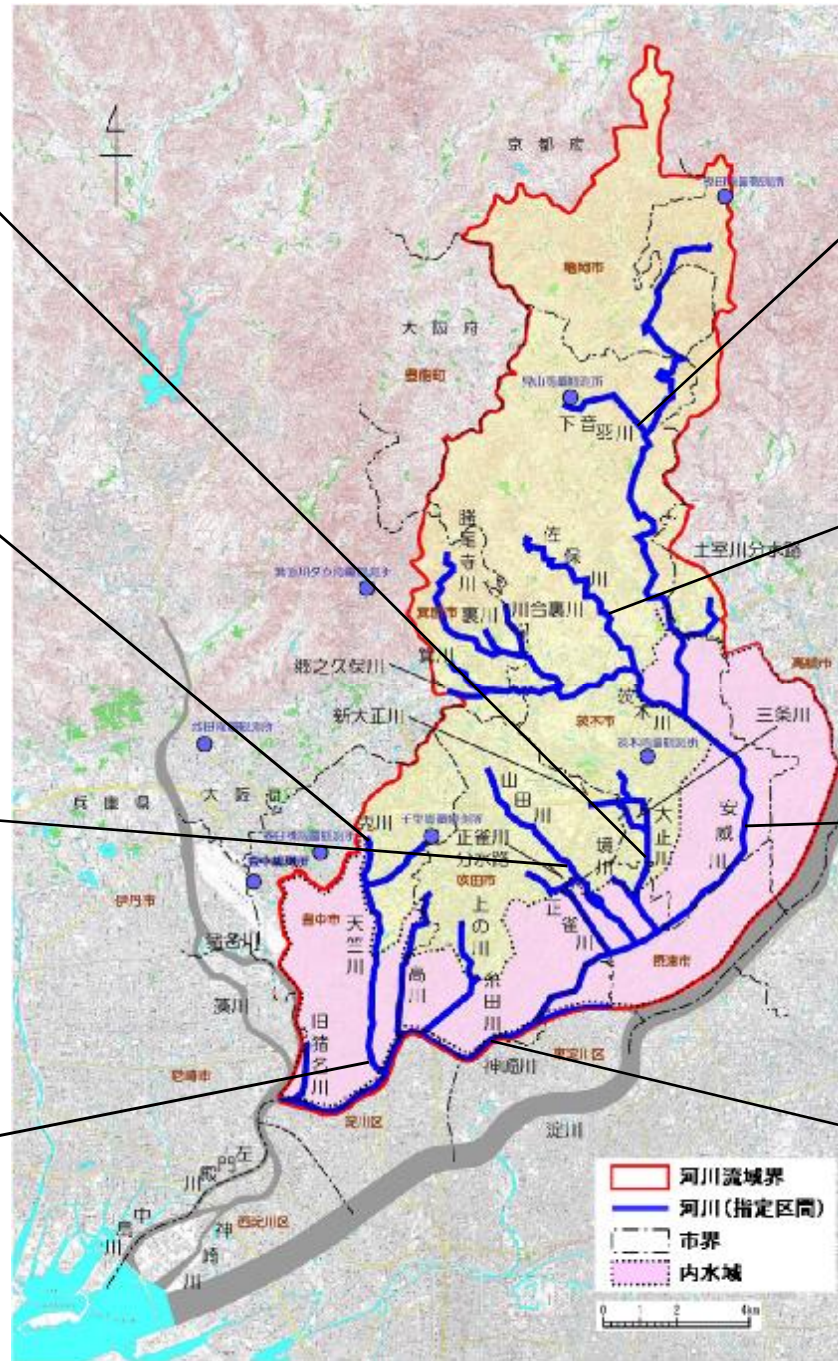
兎川 豊中市東豊中



山田川 摂津市正雀



天竺川 豊中市豊南町



下音羽川 茨木市車作



佐保川 茨木市東福井



安威川 茨木市新堂



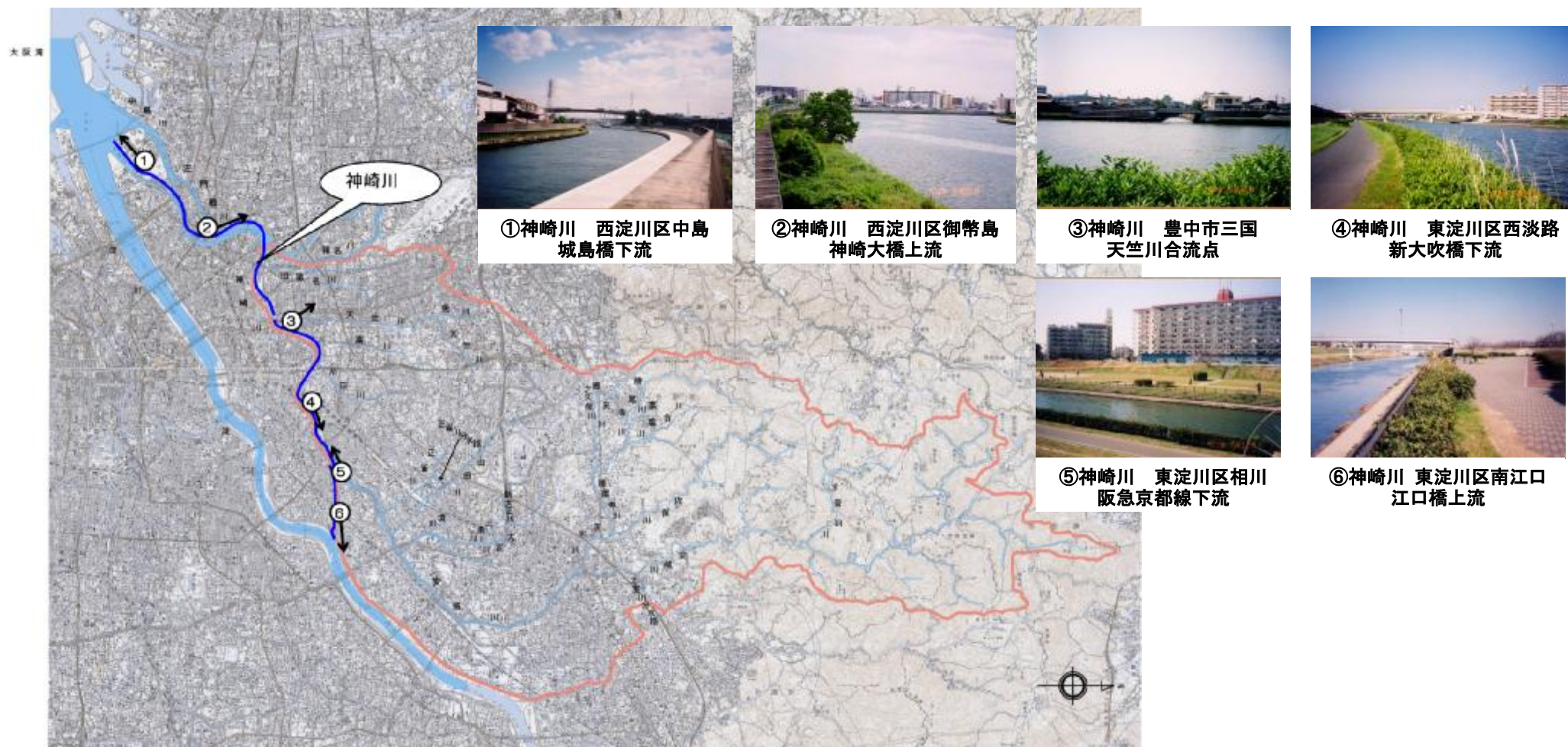
神崎川 東淀川区西淡路



## 6. 神崎川ブロックの現状(神崎川)

### ● 神崎川

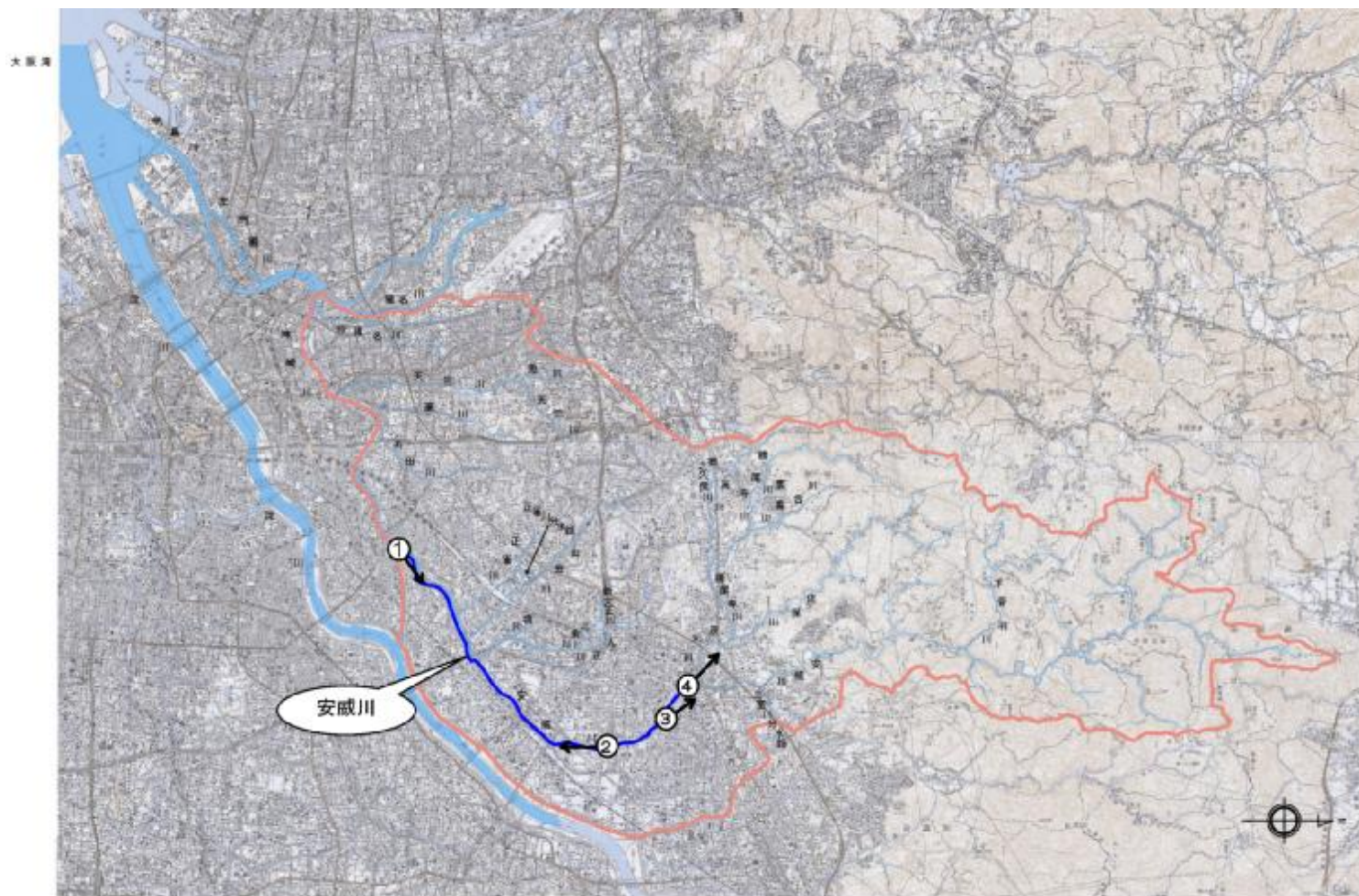
- ・神崎川本川は全区間にわたり河床勾配が水平から1/6,000程度と緩く、潮位の影響を受けやすい河川で、周辺は古くから開発が進み、市街地が形成されています。
- ・市街化された周辺環境のもと、都市の中の貴重なオープンスペースとして自転車道、遊歩道をはじめとする高水敷の整備が行われています。



## 6. 神崎川ブロックの現状(安威川)

### ● 安威川(神崎川合流～茨木川合流点付近)

- ・安威川下流(神崎川合流点から安威川新橋付近)では川幅が100m以上と広く、高水敷を有する河川がほぼ直線上に流れており、高水敷の一部は自転車道として活用されています。
- ・大正川との合流部付近までは感潮域となるため川幅いっぱい水面が見られますが、河床勾配は1/1,500～1/2,000と非常に緩いため平常時は水の流れはほとんどありません。

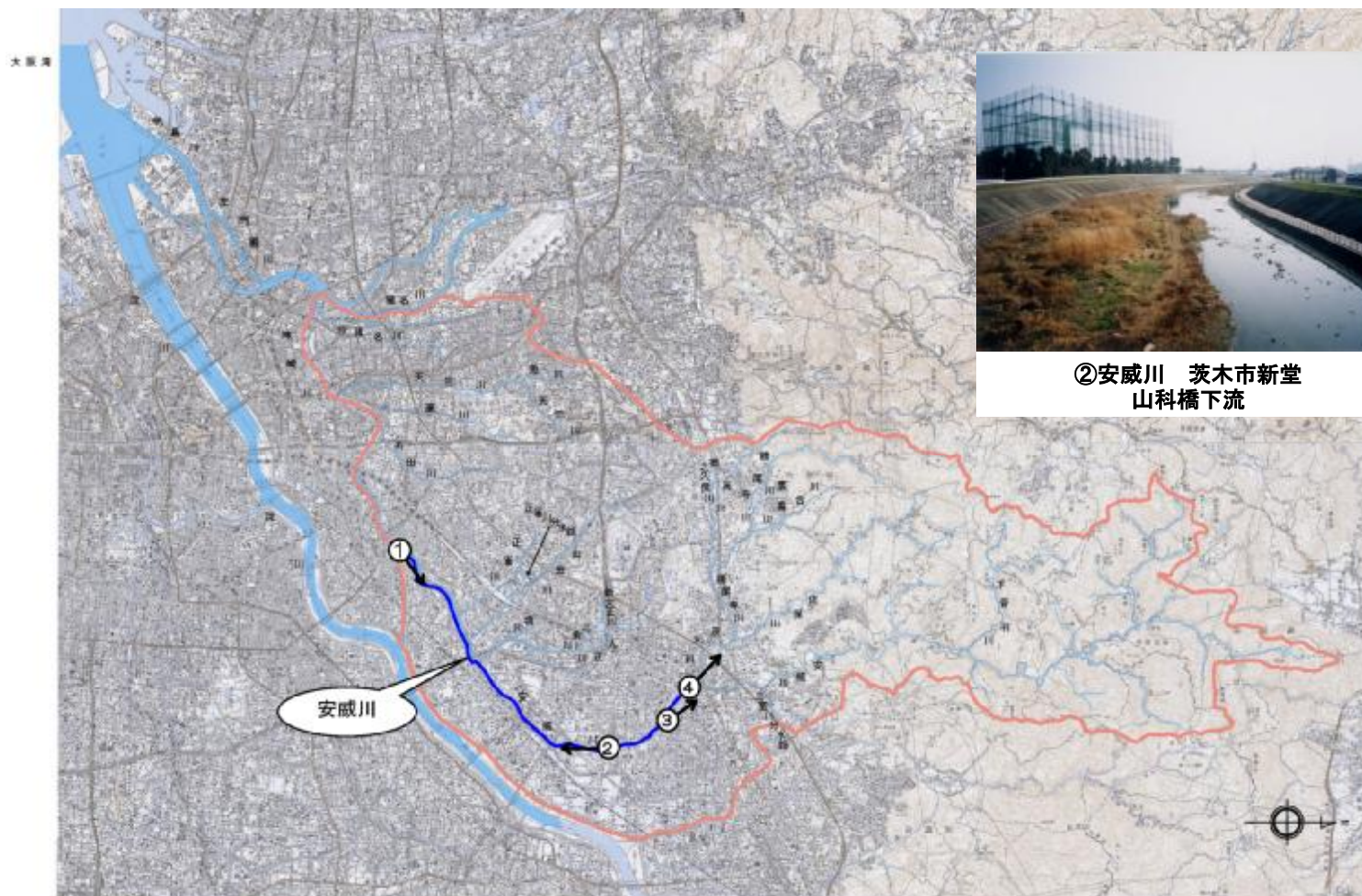


①神崎川・安威川 東淀川区相川  
高浜橋下流

## 6. 神崎川ブロックの現状(安威川)

### ● 安威川(神崎川合流～茨木川合流点付近)

・安威川中下流(安威川新橋付近～茨木川合流点付近)では川幅は70～80m程度となっています。高水敷があり、緩やかに蛇行しながら流れています。高水敷は、広場や遊歩道等として整備されているほか、桜堤の整備が実施されて、地域の人々の憩いの場となっています。河床勾配は1/500～1/900程度で緩やかに流れ、周辺には市街地が形成されています。



②安威川 茨木市新堂  
山科橋下流



③安威川 茨木市床  
千歳橋上流点

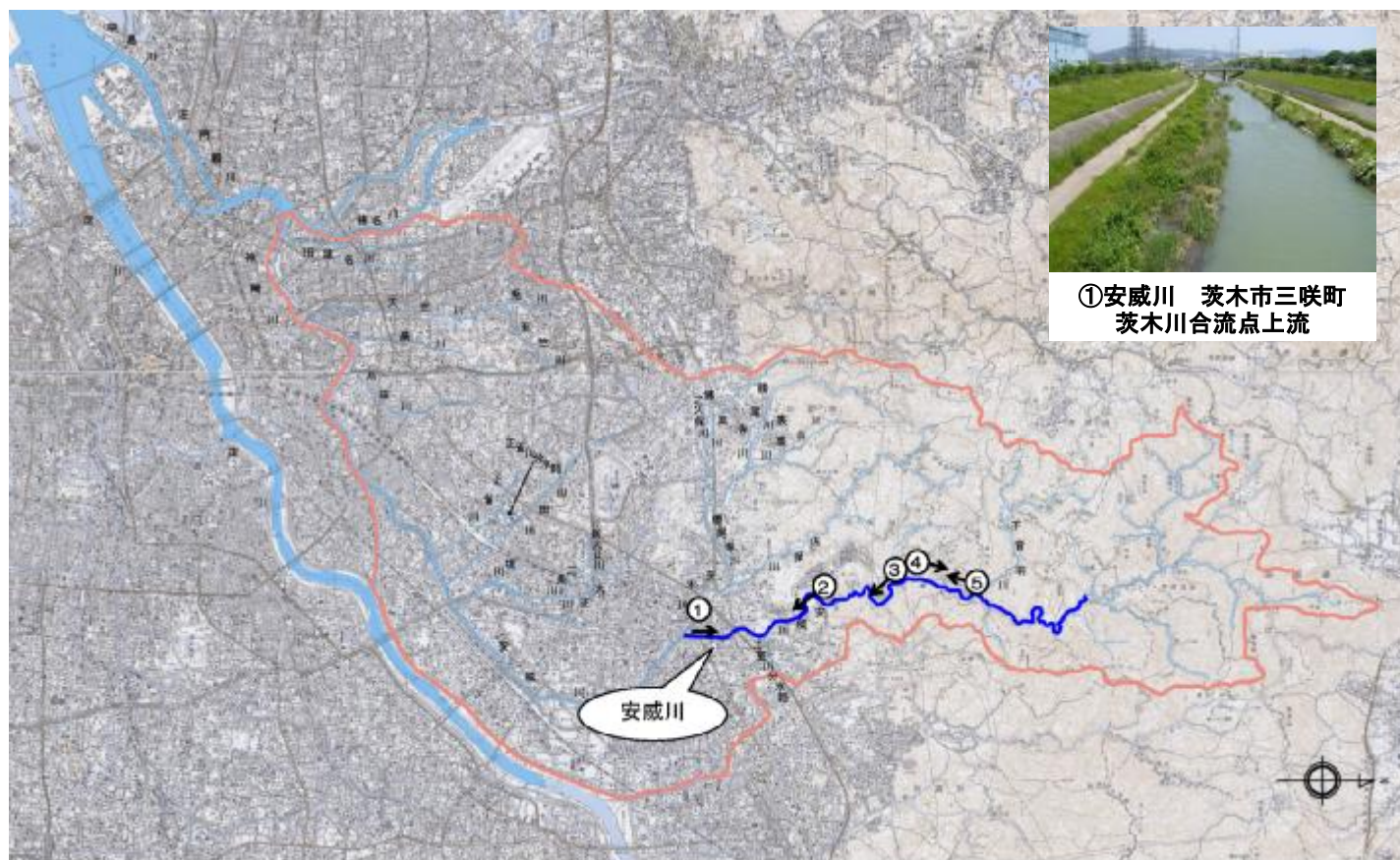


④安威川 茨木市三咲町  
茨木川合流

## 6. 神崎川ブロックの現状(安威川)

### ● 安威川(神崎川合流点上流)

- ・安威川中上流(茨木川合流点付近～長ヶ橋)では川幅は50m程度となります。高水敷には遊歩道の整備が施されています。河床勾配は1/300程度で、周辺には農地が見られます。
- ・安威川上流(長ヶ橋より上流)では農地や樹林の間を蛇行しながら流下しています。川幅は20～30m程度と狭く、河床勾配も1/100以下と急になります。山付き部は河畔林が水面まで迫る溪流の様相で、瀬・淵の連続する多様な河川形態となっています。



①安威川 茨木市三咲町  
茨木川合流点上流



②安威川 茨木市桑原  
桑原橋下流



③安威川 茨木市車作  
登龍橋下流



④安威川 茨木市車作  
高橋上流

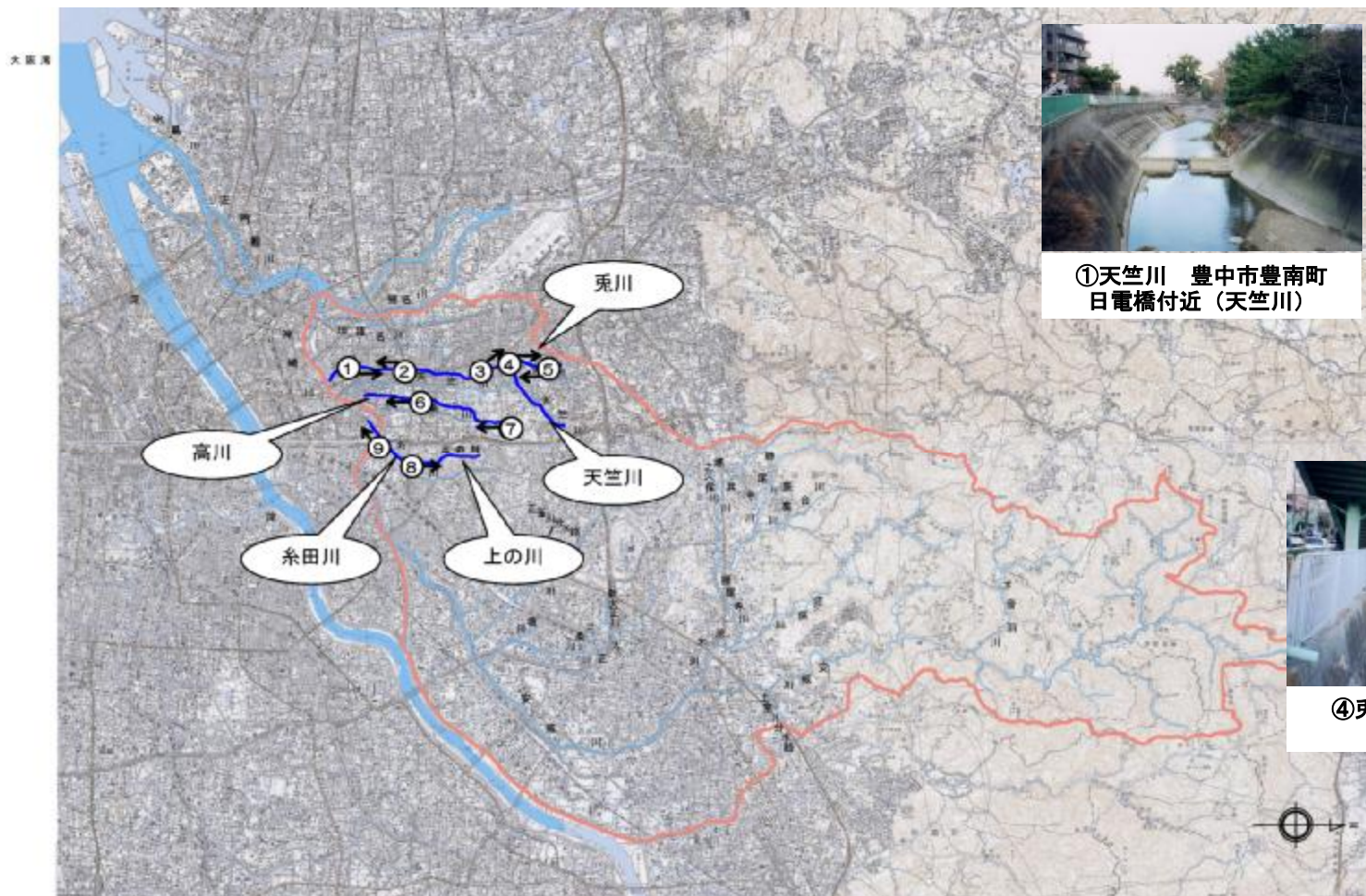


⑤安威川 茨木市車作  
車作大橋下流

## 6. 神崎川ブロックの現状(天竺川・兎川)

### ● 天竺川・兎川

・各河川とも急勾配のコンクリート護岸で整備され、水辺に近づきにくくなっています。また、流域の大半が市街化され、河床勾配が1/100～1/200と比較的こう配が急なため、大雨時には急激に水位が上昇することがあります。神崎川合流点付近は河床勾配も緩く、一部は天井川となっている上、河道周辺は住宅が密集しています。



①天竺川 豊中市豊南町  
日電橋付近(天竺川)



②天竺川 豊中市浜  
天竺川橋下流



③天竺川 豊中市  
旭丘  
旭ヶ丘橋付近



④兎川 豊中市熊野町  
天竺川合流地点

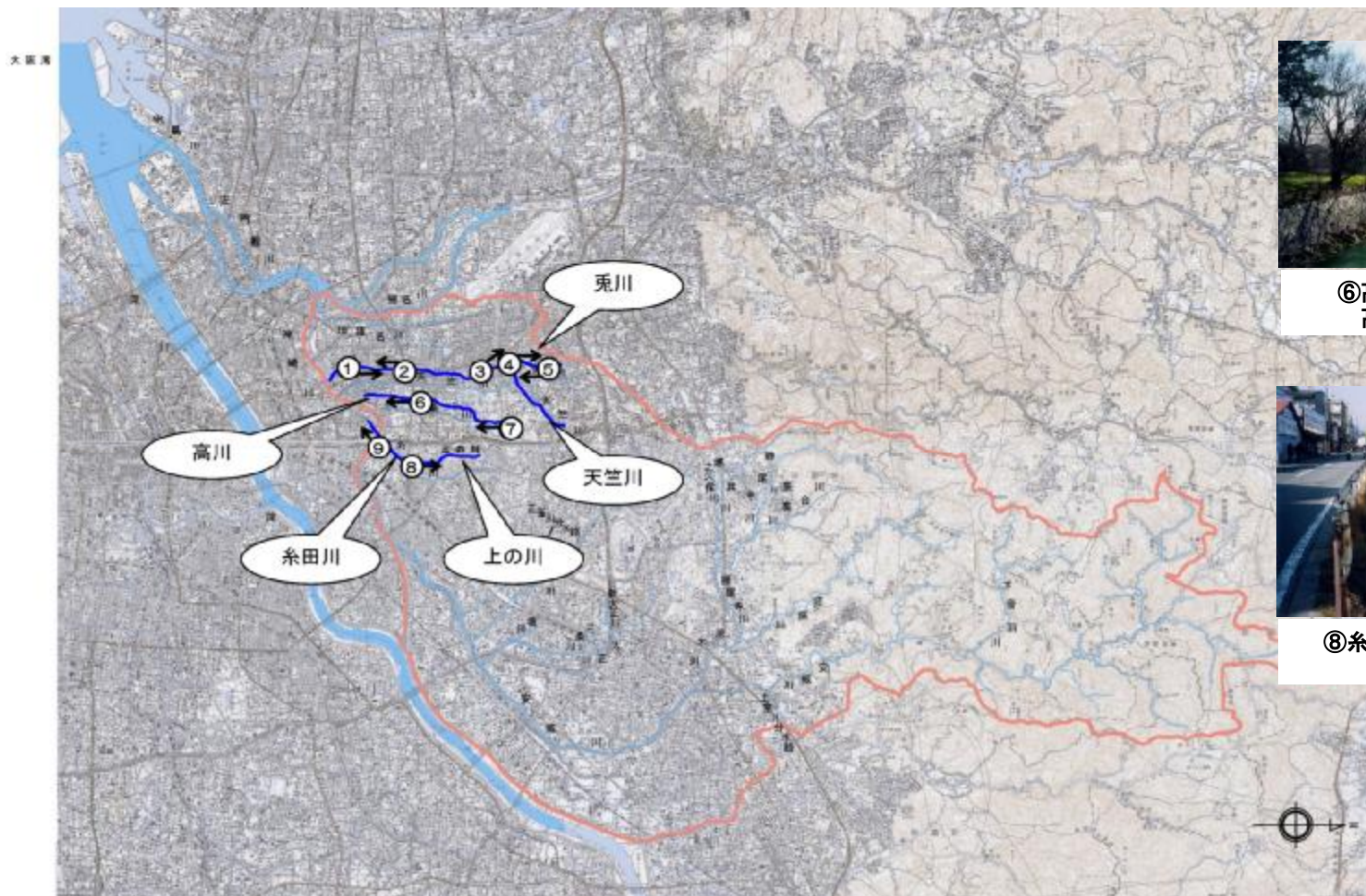


⑤兎川 豊中市東豊中  
東豊中橋下流

## 6. 神崎川ブロックの現状(高川、糸田川、上の川)

### ● 高川、糸田川、上の川

- ・高川は服部緑地より下流側で落差工直下の淵、景観に配慮したコンクリートの法面、河道へのアクセスのためのスロープなど、利用に配慮した整備がされています。
- ・糸田川の中上流部では、川沿いに桜並木があり、一部で桜堤整備が実施されています。



⑥高川 吹田市江坂  
高川水路橋下流



⑦高川 吹田市春日  
一級河川始点下流



⑧糸田川 吹田市泉町  
豊津駅付近



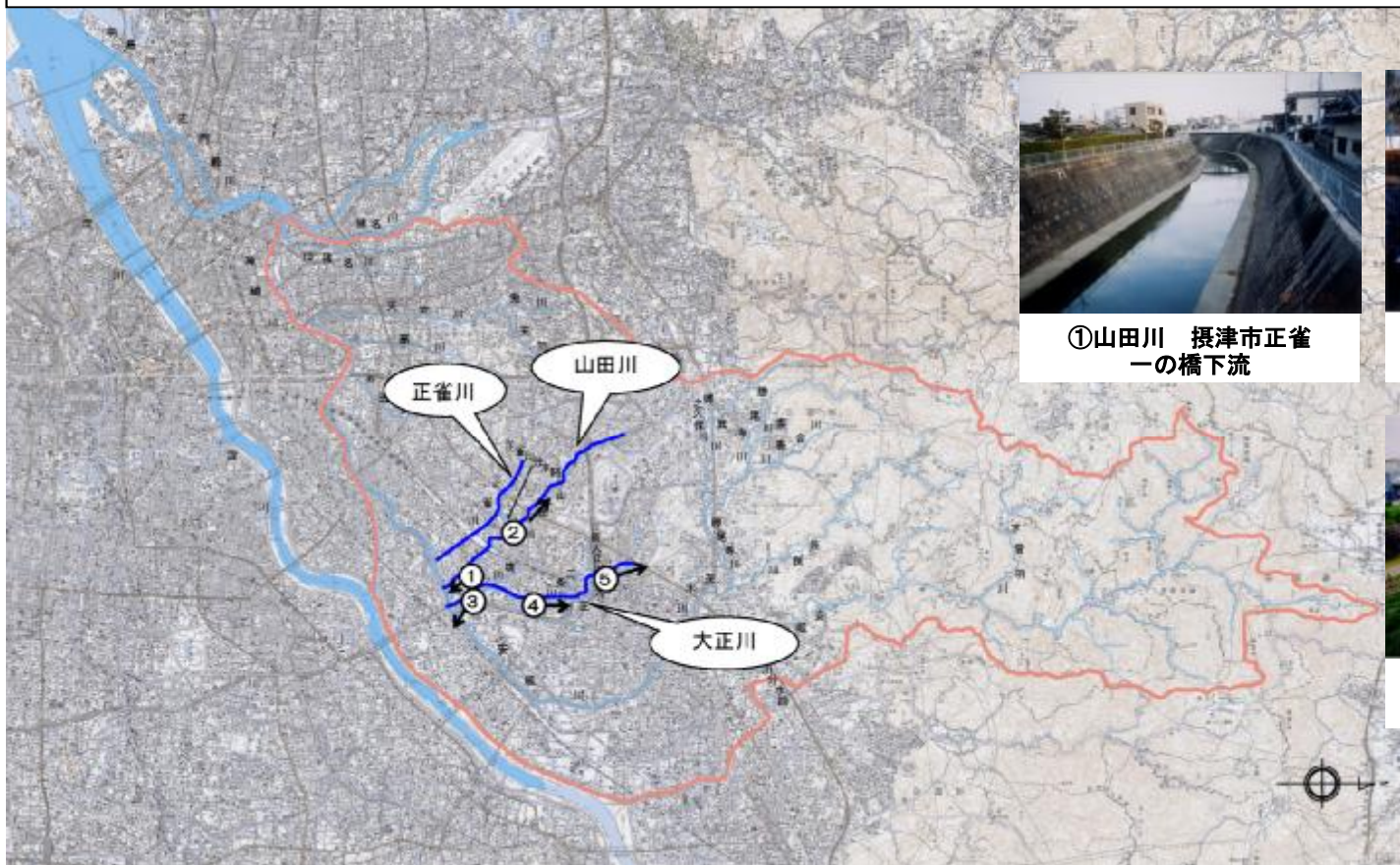
⑨糸田川 吹田市南吹田  
新糸田川橋付近



## 6. 神崎川ブロックの現状(大正川・新大正川、境川、三条川、山田川、正雀川、正雀川分水路)

### ● 大正川・新大正川、境川、三条川、山田川、正雀川、正雀川分水路

- ・大正川の下流部は、安威川と同様に高水敷を有しており、高水敷は、遊歩道等として整備されています。加えて桜堤整備も進められて地域の人々の憩いの場となっています。
- ・大正川の上流部や山田川などの支川は、コンクリート護岸の勾配が急で、水辺には近づきにくくなっています。
- ・各河川の周辺には市街地が形成されています。



①山田川 摂津市正雀一の橋下流



②山田川 摂津市千里丘下大神木橋上流



③大正川 摂津市三島鶴野中橋下流



④大正川 茨木市沢良宜大正川橋上流



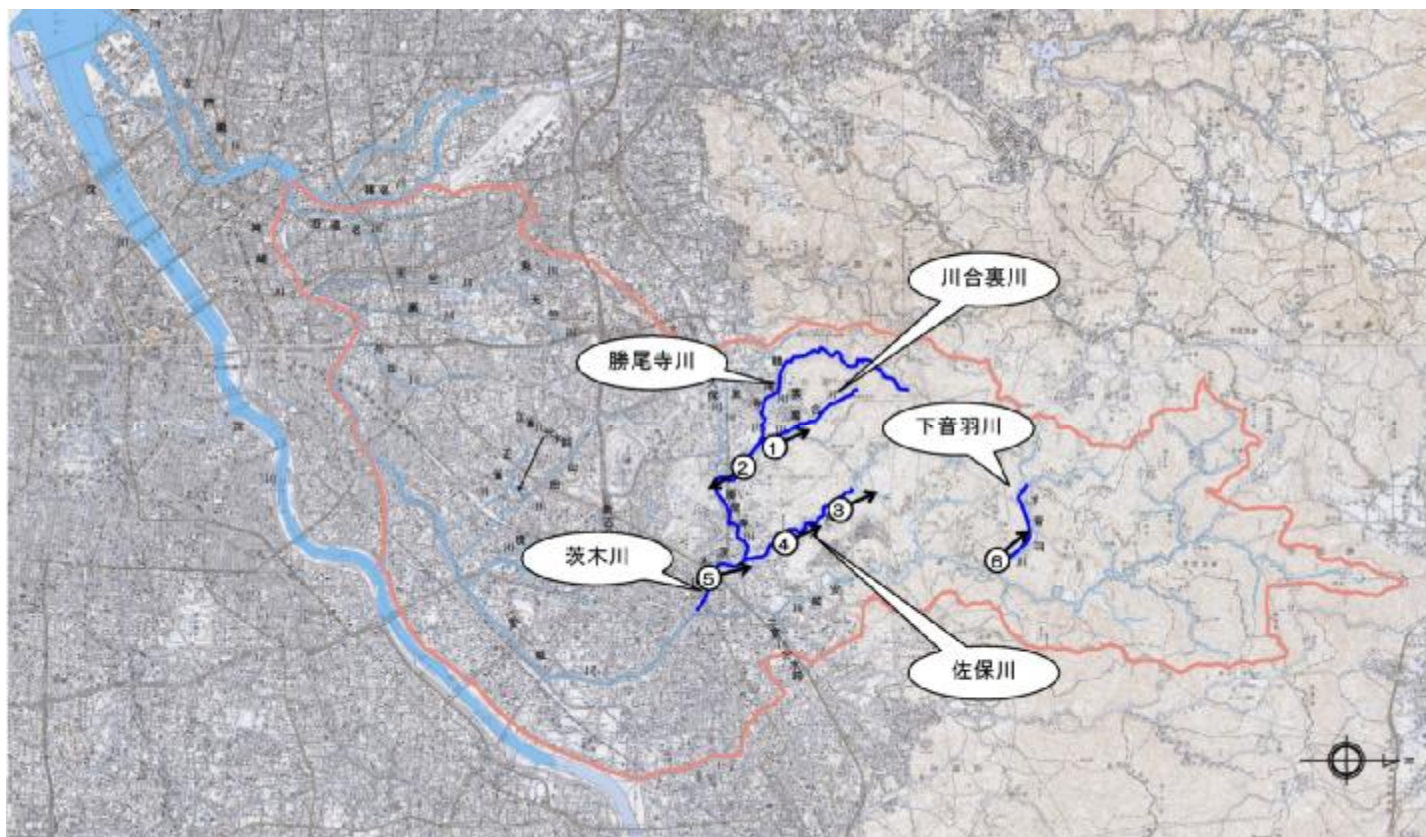
⑤大正川 茨木市下穂積春日橋下流

## 6. 神崎川ブロックの現状(茨木川、佐保川、勝尾寺川、箕川、郷之久保川、川合裏川、裏川、土室分水路、下音羽川)

### ● 勝尾寺川、川合裏川

・川合裏川は河床勾配が1/150、河川幅10m程度の急流河川でしたが、彩都の都市開発により、平成16年度にまちづくりと一体となった河川整備が完了し、そのまち開きが行われました。

・勝尾寺川は、河床勾配が上流で1/30、下流で1/50となっています。上流部は山地河川で両側に山が迫り、短い区間で瀬と落差が連続します。下流部では箕川が合流しており、その周辺は市街化が進み、河道はコンクリート護岸で整備されています。



①川合裏川 箕面市粟生間谷  
川合裏川上流



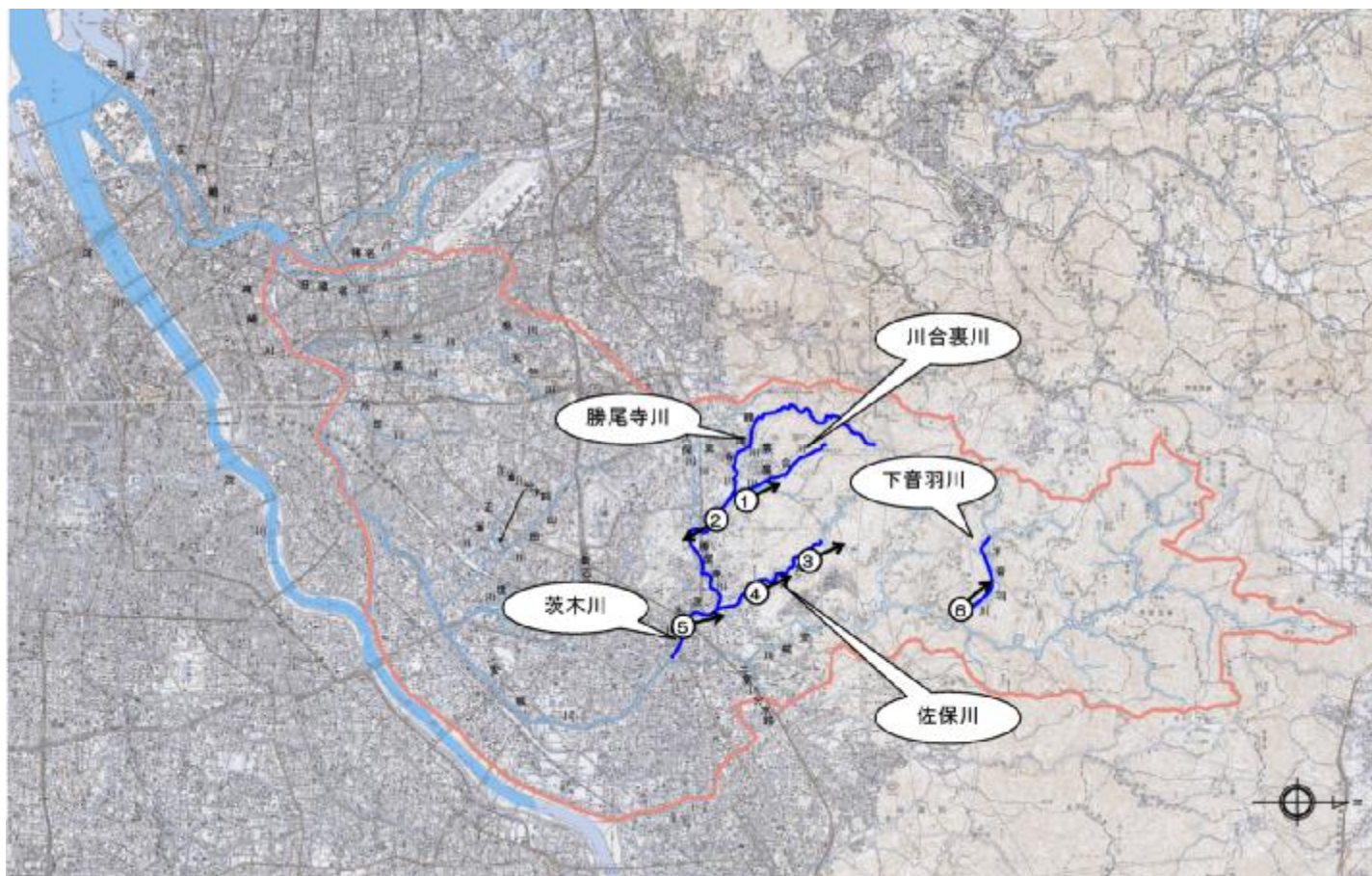
②勝尾寺川 茨木市宿久庄  
川合橋可動堰

## 6. 神崎川ブロックの現状(茨木川、佐保川、勝尾寺川、箕川、郷之久保川、川合裏川、裏川、土室分水路、下音羽川)

### ● 佐保川

・佐保川は、勝尾寺川合流点より上流の旧茨木川をさし、平成12年に名称変更がされました。上流は河床勾配が1/30ですが、集落があり古い護岸が築かれて河川になじんだ様相となっています。

下流部では河床勾配が1/350とやや緩やかになり、住宅地が広がっています。佐保川流域で彩都の開発が進められている。



③佐保川 茨木市馬場  
馬場大橋付近

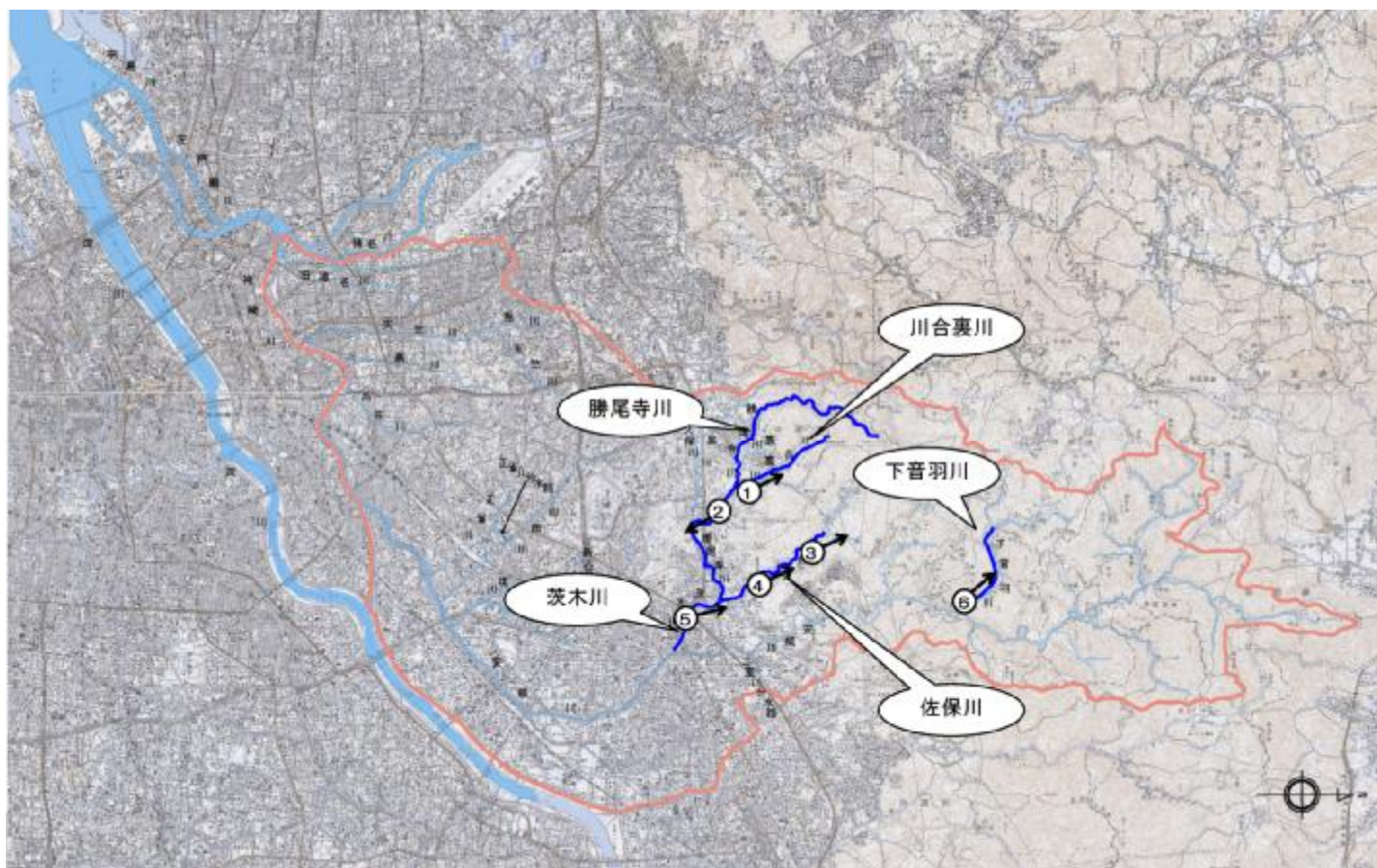


④佐保川 茨木市東福井  
福井橋下流

## 6. 神崎川ブロックの現状(茨木川、佐保川、勝尾寺川、箕川、郷之久保川、川合裏川、裏川、土室分水路、下音羽川)

### ● 茨木川

- ・茨木川は川幅が40～50m程度、河床勾配が1/350程度となっています。昭和42年の北摂豪雨を契機に本格的な河川整備が進められ、安威川合流点から勝尾寺川合流点までの区間が改修済みとなっています。河道はコンクリート護岸で整備されており、堤防には階段護岸、高水敷には遊歩道などが整備されています。
- ・河川の周辺には市街地が形成されています。

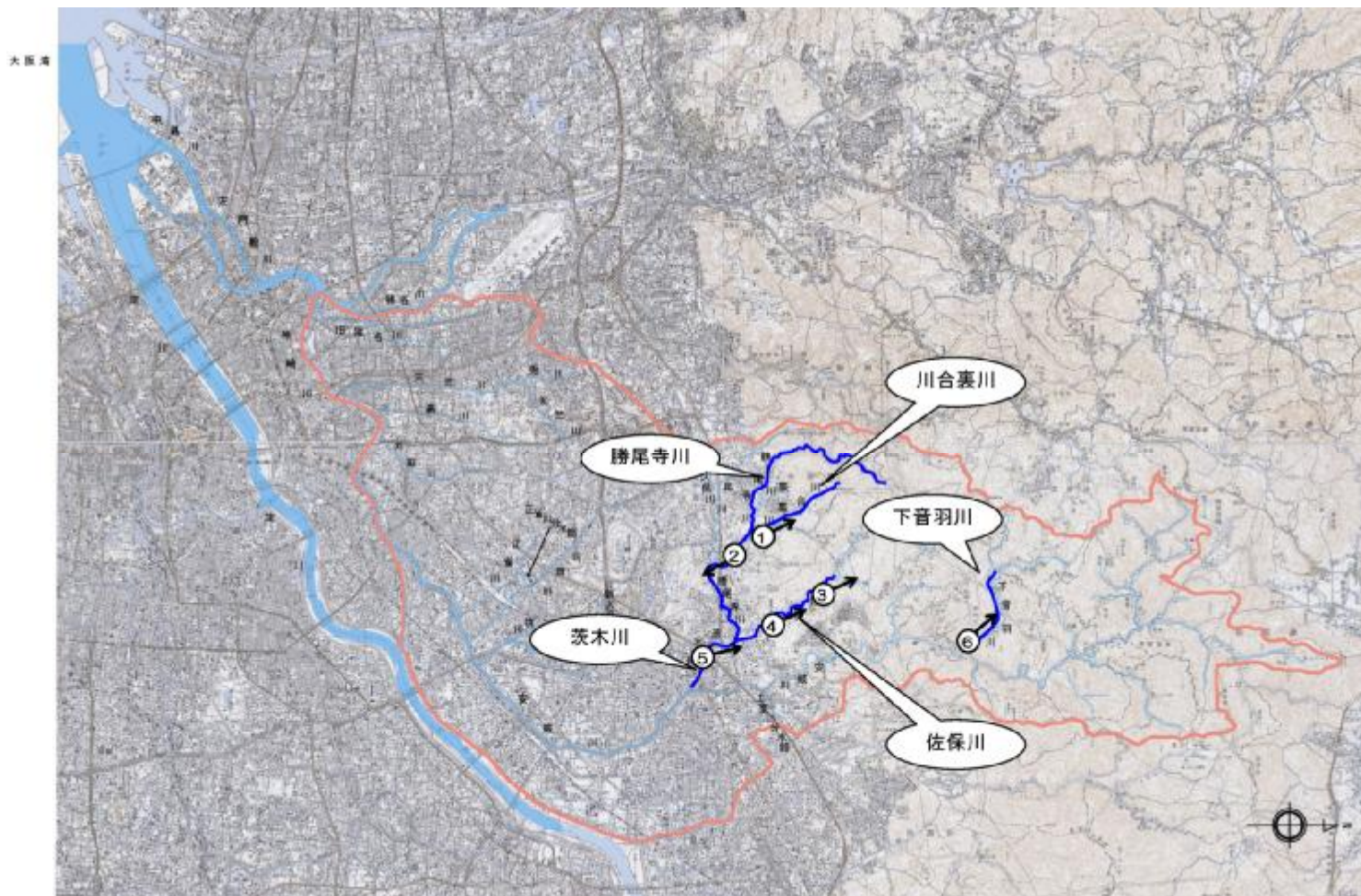


⑤茨木川 茨木市上野  
上野橋上流

## 6. 神崎川ブロックの現状(茨木川、佐保川、勝尾寺川、箕川、郷之久保川、川合裏川、裏川、土室分水路、下音羽川)

### ● 下音羽川

- ・下音羽川は上流部では農地や樹林の間を蛇行しながら流下し、下流部では山付き部となり河畔林が水面まで迫る溪流となっています。



⑥下音羽川 茨木市車作  
安威川合流点付近

## 6. 神崎川ブロックの現状(環境)

### ●魚類

神崎川ブロックの河川を含む北摂エリアの調査では、安威川、茨木川、佐保川、山田川、勝尾寺川、大正川、芥川、女瀬川、檜尾川、東檜尾川、水無瀬川、天竺川、糸田川の13河川で、7目13科32種の魚類が確認されています。

安威川ダム予定地周辺の調査(昭和53年度から)では、安威川及びその支川やため池において合計8目17科43種の魚類が確認されています。



アカザ



アジメドジョウ



ズナガニゴイ

### 確認された貴重種(抜粋)

出典:「安威川ダム建設予定地周辺自然環境調査一式 昭和53年から平成28年」  
「一級河川安威川外 河川水辺環境調査委託報告書 平成26年3月」等

## 6. 神崎川ブロックの現状(環境)

### ●底生動物

神崎川ブロックの河川を含む北摂エリアの調査では、安威川、茨木川、佐保川、山田川、勝尾寺川、大正川、芥川、女瀬川、檜尾川、東檜尾川、水無瀬川、天竺川、糸田川の13河川で、23目73科163種の底生動物が確認されています。安威川ダム予定地周辺の調査(昭和53年度から)では、安威川及びその支川やため池において合計31目135科514種の底生動物が確認されています。



ゲンジボタル

※ゲンジボタル: 以前の大阪府RDBでは要注目種であったが、大阪府レッドデータリスト2014では、要注目カテゴリーがなくなったため、現在は一般種。

### ●両生類・爬虫類

神崎川ブロックの両生・爬虫類は、両生類は2目7科15種、爬虫類は2目6科13種が確認されています。安威川上流や佐保川では、オオサンショウウオ(大阪府レッドリスト: 絶滅危惧Ⅱ類、環境省レッドリスト: 絶滅危惧Ⅱ類、天然記念物)の生息が確認されています。



確認された貴重種(抜粋)

オオサンショウウオ

出典:「安威川ダム建設予定地周辺自然環境調査一式 昭和53年から平成28年」  
「一級河川安威川外 河川水辺環境調査委託報告書 平成26年3月」等

## 6. 神崎川ブロックの現状(治水の現状と課題・目標)

河川名	現状	課題	目標
神崎川	北摂豪雨(昭和42年7月)を契機に神崎川基本計画(昭和42年11月)が策定され改修が進められてきました。神崎川全体計画(平成9年11月)が策定され、改修を進めていますが、現状で時間雨量50ミリ程度の降雨に対応できない区間があります。	洪水に対する安全性を向上させる必要があります。	当面の治水目標は、時間雨量65ミリ程度
旧猪名川	時間雨量80ミリ程度の改修が完成しています。	—	現状で治水目標レベルを達成済
天竺川 兎川	昭和21年より改修に着手し、北摂豪雨の被害を受けて昭和42年から昭和45年に改修が行われましたが、現状で、時間50ミリ程度の降雨に対応できない区間があります。	市街化の進行した沿川では河道拡幅や河床掘削による対応が困難であり、既存施設を有効活用した、流出抑制対策が必要です。	当面の治水目標は、時間雨量80ミリ程度
高川	昭和34年から昭和39年にかけて改修が行われましたが、現状で、時間50ミリ程度の治水安全度は確保できていません。	市街化の進行した沿川では河道拡幅や河床掘削による対応が困難であり、既存施設を有効活用した、流出抑制対策が必要です。	当面の治水目標は、時間雨量80ミリ程度
糸田川	時間雨量80ミリ程度の改修が完成しています。	-	現状で治水目標レベルを達成済
上の川	平成15年に上の川調節池が整備され改修が行われましたが、名神高速道路上流ではいくつかの箇所では時間雨量50ミリ程度の降雨による洪水に対応できない区間があります。	市街化の進行した沿川では河道拡幅や河床掘削による対応が困難であり、既存施設を有効活用した、流出抑制対策が必要です。	当面の治水目標は、時間雨量50ミリ程度
安威川	昭和42年以降河川改修とダムの建設を内容とした治水事業を進めていますが、現状で、時間雨量50ミリ程度の降雨に対応できない区間があります。	洪水に対する安全性を向上させる必要があります。	当面の治水目標は、時間雨量80ミリ程度



## 6. 神崎川ブロックの現状(治水の現状と課題・目標)

河川名	現状	課題	目標
山田川 正雀川 正雀川分水路	万国博覧会に関連して改修が行われました。現状で、時間50ミリ程度の治水安全度は確保できています。	市街化の進行した沿川では河道拡幅や河床掘削による対応が困難であり、既存施設を有効活用した、流出抑制対策が必要です。	当面の治水目標は、時間雨量80ミリ程度
大正川	昭和58年から平成元年にかけて河床掘削が行われました。現状で、時間50ミリ程度の治水安全度は確保できていますが、春日橋上流で時間80ミリ程度の降雨に対応できていない区間があります。	市街化の進行した沿川では河道拡幅や河床掘削による対応が困難であり、既存施設を有効活用した、流出抑制対策が必要です。	当面の治水目標は、時間雨量80ミリ程度
境川 三条川 新大正川	時間雨量80ミリ程度の改修が完成しています。	—	現状で治水目標レベルを達成済
茨木川 佐保川	昭和42年より、安威川筋の改修工事が本格的に実施されました。その後、流域の開発により洪水流量の増大が懸念され、これまでの計画を見直し、茨木川全体計画(平成7年12月)、川合裏川防災調節池全体計画(平成8年2月)が策定され、河川改修を実施してきました。現在、茨木川、佐保川は、時間雨量65ミリ程度の降雨による洪水に対応できる整備が完了しています。	—	現状で治水目標レベルを達成済
勝尾寺川	昭和42年より、安威川筋の改修工事が本格的に実施されました。その後、流域の開発により洪水流量の増大が懸念され、これまでの計画を見直し、茨木川全体計画(平成7年12月)、川合裏川防災調節池全体計画(平成8年2月)が策定され、河川改修を実施してきました。現在、茨木川、佐保川は、時間雨量65ミリ程度の降雨による洪水に対応できる整備が完了しています。	—	現状で治水目標レベルを達成済

## 6. 神崎川ブロックの現状(治水の現状と課題・目標)

河川名	現状	課題	目標
箕川	現状で、時間80ミリ程度の降雨に対応できていない区間があります。	市街化の進行した沿川では河道拡幅や河床掘削による対応が困難であり、既存施設を有効活用した、流出抑制対策が必要です。	当面の治水目標は、時間雨量80ミリ程度
郷之久保川	時間雨量80ミリ程度の改修が完成しています。	—	現状で治水目標レベルを達成済
川合裏川	昭和42年より、安威川筋の改修工事が本格的に実施されました。その後、流域の開発により洪水流量の増大が懸念され、これまでの計画を見直し、茨木川全体計画(平成7年12月)、川合裏川防災調節池全体計画(平成8年2月)が策定され、河川改修を実施してきました。 現在、川合裏川は、時間雨量80ミリ程度の降雨による洪水に対応できる整備が完了しています。	—	現状で治水目標レベルを達成済
裏川	時間雨量80ミリ程度の改修が完成しています。	—	現状で治水目標レベルを達成済
土室川分水路	時間雨量80ミリ程度の改修が完成しています。	—	現状で治水目標レベルを達成済
下音羽川	時間雨量80ミリ程度の改修が完成しています。	—	現状で治水目標レベルを達成済

## 7. これからの神崎川ブロックでの取り組みについて

### 大阪府の総合計画や国土利用計画及び各市の総合計画などによる流域の将来像

- 既成密集市街地やその周辺地域については、行政・住民・企業等の連携により市街地の再生を進めることが求められている。その際に、市街地を流れる河川やため池、水路などの水辺は貴重な**オープンスペース**やゆとり・やすらぎの空間として保全・活用を図ることにより、みどり豊かな都市空間の創出を目指すこととされている。
- 市街地と丘陵部の中の田園地域では、里山や農空間の保全をはかりつつ、良好な自然環境に配慮したまちづくりが求められている。
- 北摂山地に繋がる山地については、都市近郊の比較的豊かな森林を優れた自然の風景地とし、公益的機能を十分発揮しうるよう積極的な保全・整備を図るとともに、自然環境を活かした**レクリエーション**等の場としての活用を進めることとされている。
- 丘陵部における**彩都**の開発では、新しい居住空間の創造とライフサイエンス分野における国際的な研究開発拠点の形成を目指したまちづくりが進められている。
- 主要な河川や水路などは、山地の豊かな自然と既成市街地を結ぶ**水と緑のネットワーク**の形成などの観点から保全や整備をすすめることにより、府民が身近なみどりや水辺に親しめる魅力ある空間となることも期待されている。また河川や水路は市街地のなかでは**オープンスペース**として、延焼防止や災害時の避難地としても貴重であり、地域の防災拠点機能の整備も必要とされている。



#### 【共通項目】

- **治水、利水機能を高め、水害を未然に防止すると共に、水辺環境の保全と親水空間の創出を図る。**
- **河川沿いをオープンスペースとしての活用し、水と緑の環境軸(エコロジカルネットワーク軸)を形成する。**

#### 【茨木市において、特筆されている項目】

- **彩都に隣接しており、新名神高速道路が整備される予定である安威川ダムのダム湖周辺の整備を推進するとともに、広域的なレクリエーション拠点の形成を図る。**

# 7. これからの神崎川ブロックでの取り組みについて

## 河川整備計画の目標

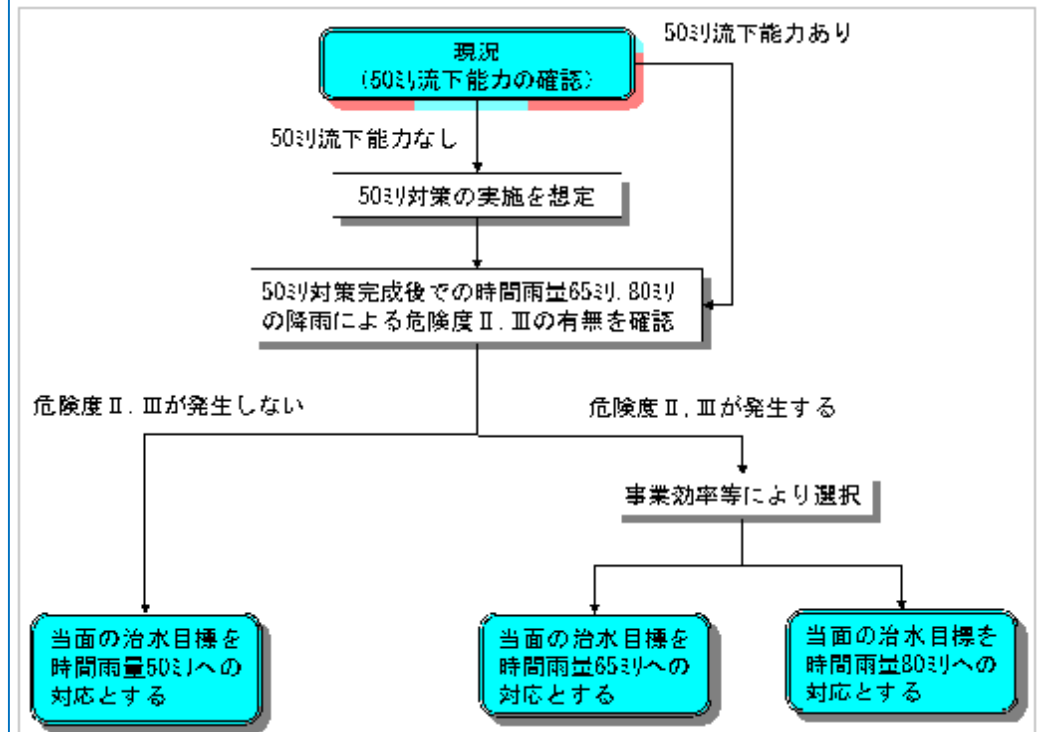
### 1) 洪水対策

#### I 当面の治水目標（今後20～30年程度）

- ◆基本理念：人命を守ることを最優先とする。
- ◆大阪府全域で時間雨量50ミリ程度の降雨に対して床下浸水を防ぐ。
- ◆その後、事業効率等を考慮して、時間雨量65ミリ程度もしくは時間雨量80ミリ程度のいずれかの降雨による床上浸水を防ぐ。

#### I 神崎川ブロックの当面の治水目標

- ◆天竺川・兎川、高川、安威川、山田川・正雀川・正雀川分水路、大正川、箕川  
：時間雨量80ミリ程度
- ◆神崎川：時間雨量65ミリ程度
- ◆上の川：時間雨量50ミリ程度
- ◆その他：現状で目標治水レベル達成済



当面の治水目標設定フロー

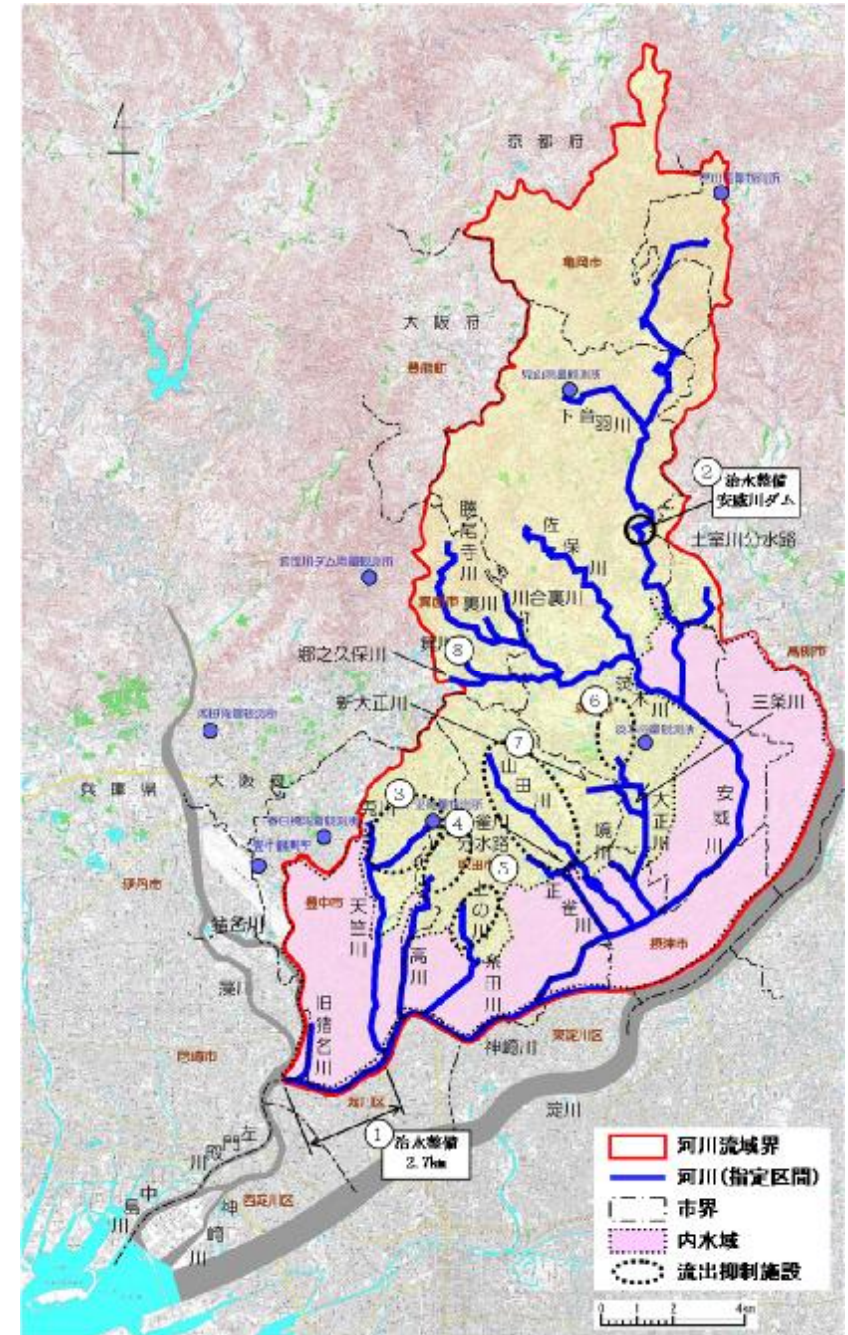
ただし、当面の治水目標に基づく河川整備が進んでも危険度Ⅰ（床下浸水）は残る箇所もあります。

# 7. これからの神崎川ブロックでの取り組みについて

## 1. 洪水対策

整備対象区間

河川名	整備対象区間		整備延長
神崎川	①	猪名川合流点上流～新三国橋下流	2.7km
安威川	②	茨木市 大字生保、安威、大門寺地先	安威川ダム
天竺川 兔川	③	八坂橋上流	流出抑制施設等
高川	④	稻荷橋上流	流出抑制施設等
上の川	⑤	名神橋梁上流	流出抑制施設等 雨水排水経路見直し
大正川	⑥	春日丘橋上流	流出抑制施設等
山田川 正雀川 正雀川分水路	⑦	JR東海道本線上流	流出抑制施設等
箕川	⑧	勝尾寺川合流点上流	流出抑制施設等



# 7. これからの神崎川ブロックでの取り組みについて

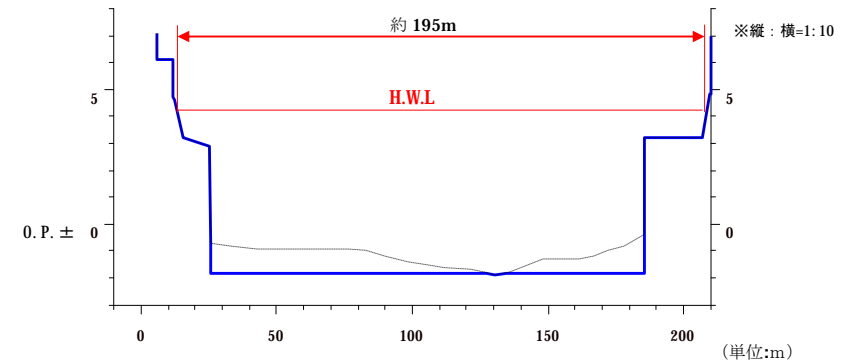
## (1) 神崎川(猪名川合流点上流)の洪水対策

整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
神崎川 (猪名川合流点上流)	猪名川合流点上流 ～新三国橋下流 の2.7kmの区間	河床の掘削を行います。実施にあたっては周囲への影響が小さくなるように配慮します。 また、河床掘削に伴い環境基準を超過するダイオキシン類などが発見された場合には、適宜処理方法を検討し対処します。

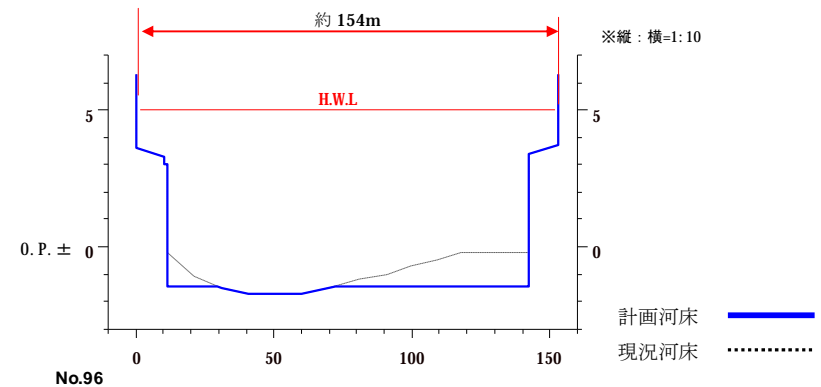


図 神崎川河床掘削平面図(猪名川合流点付近～新三国橋下流)



No.73

図 神崎川河床掘削横断面図(猪名川合流点付近)



No.96

図 神崎川河床掘削横断面図(神洲橋～三国橋)

# 7. これからの神崎川ブロックでの取り組みについて

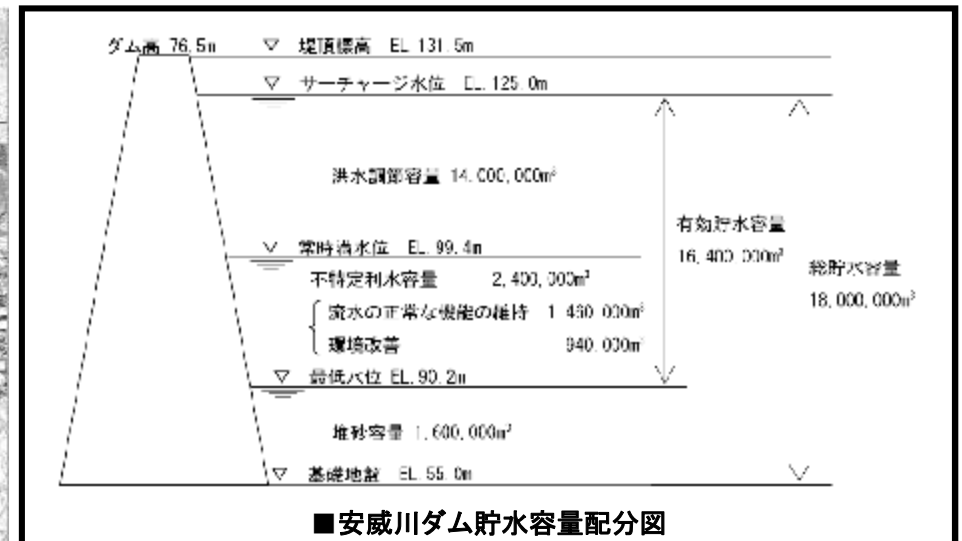
## (2) 安威川の洪水対策

整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
安威川	茨木市大字生保、安威、大門寺地先	安威川ダム建設を行います。ダム建設にあたっては、自然環境に配慮した工事を行います。また、現況環境の保全を図ります。



図 安威川ダム平面図



# 7. これからの神崎川ブロックでの取り組みについて

## (3) 天竺川・兎川の洪水対策

整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
天竺川	八坂橋上流域	ため池の活用等による流出抑制施設の整備による洪水対策を実施します。 実施にあたっては、対象とするため池の施設の安全性・存続性を確認のうえ、関係機関と調整し、実現性を考量して取り組みます。
兎川	八坂小橋上流域	



図 整備対象地域のため池の位置



# 7. これからの神崎川ブロックでの取り組みについて

## (4) 高川の洪水対策

整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
高川	稲荷橋上流域	<p>ため池の活用等による流出抑制施設の整備による洪水対策を実施します。</p> <p>実施にあたっては、対象とするため池の施設の安全性・存続性を確認のうえ、関係機関と調整し、実現性を考量して取り組みます。</p>

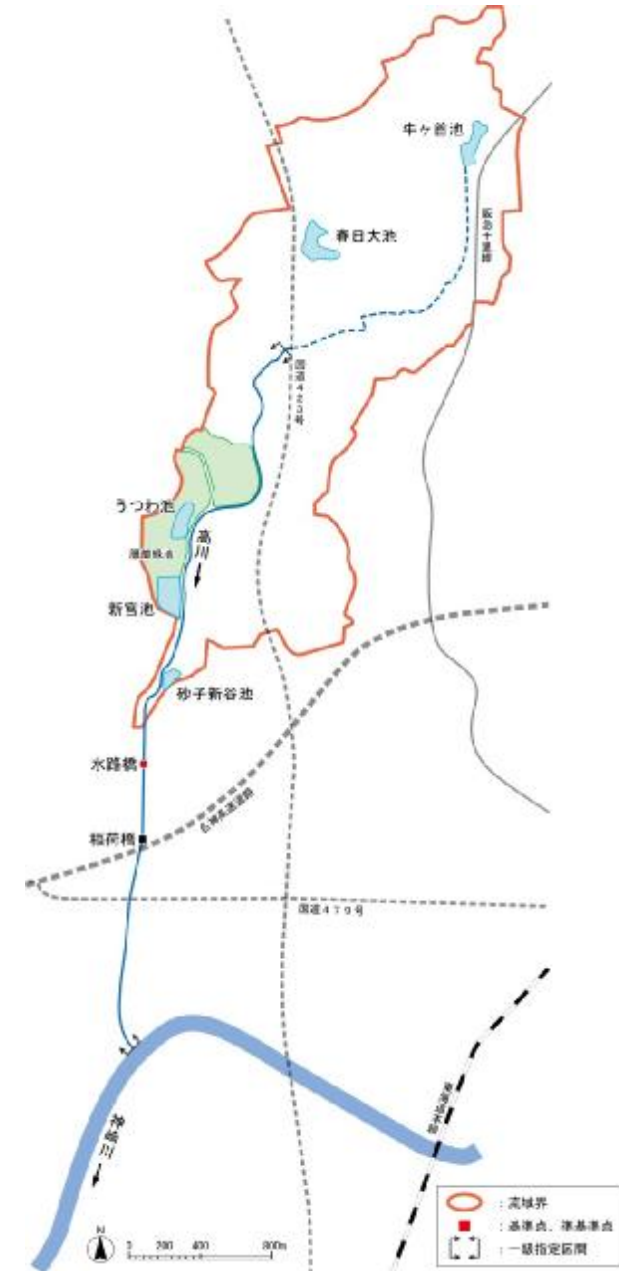


図 整備対象地域のため池の位置

# 7. これからの神崎川ブロックでの取り組みについて

## (5) 上の川の洪水対策

整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
上の川	名神橋梁上流	流出抑制施設の整備や雨水排水経路の見直しなど河道への負担を軽減することにより対応する。



図 整備対象地域のため池の位置

# 7. これからの神崎川ブロックでの取り組みについて

## (6) 大正川の洪水対策

整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
大正川	春日丘橋 上流域	<p>ため池の活用等による流出抑制施設の整備による洪水対策を実施します。</p> <p>実施にあたっては、対象とするため池の施設の安全性・存続性を確認のうえ、関係機関と調整し、実現性を考量して取り組みます。</p>

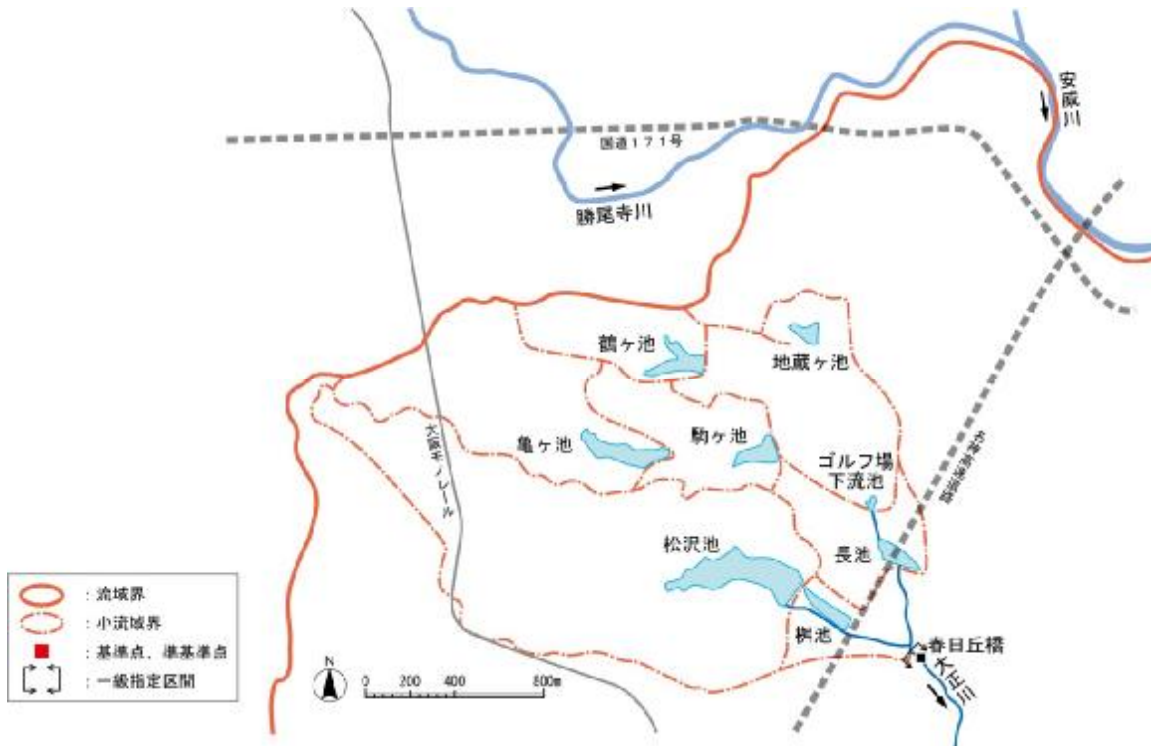


図 整備対象地域のため池の位置

# 7. これからの神崎川ブロックでの取り組みについて

## (7) 山田川・正雀川・正雀川分水路の洪水対策

整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
山田川	JR東海道本線 上流域	<p>ため池の活用等による流出抑制施設の整備による洪水対策を実施します。</p> <p>実施にあたっては、対象とするため池の施設の安全性・持続性を確認のうえ、関係機関し、実現性を考量して取り組みます。</p>
正雀川	七尾橋上流域	
正雀川分水路		

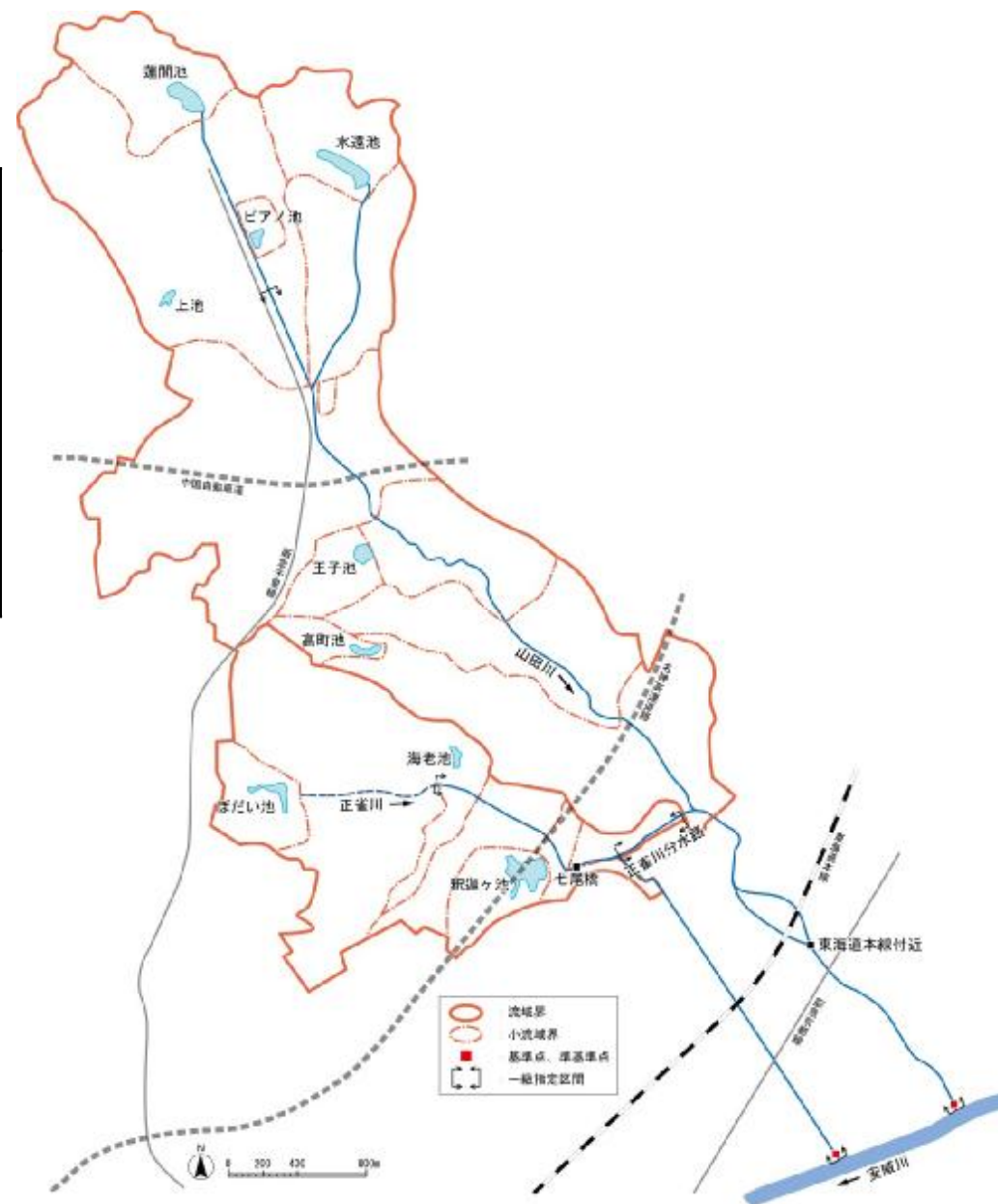


図 整備対象地域のため池の位置

# 7. これからの神崎川ブロックでの取り組みについて

## (8) 箕川の洪水対策

整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
箕川	勝尾寺川合流点 上流域	ため池の活用等による流出抑制施設の整備による洪水対策を実施します。 実施にあたっては、対象とするため池の施設の安全性・存続性を確認のうえ、関係機関と調整し、実現性を考量して取り組みます。



図 整備対象地域のため池の位置

# 7. これからの神崎川ブロックでの取り組みについて

## 2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

### (1) 水量・水利用

現状・課題	目標	実施
<p>神崎川は淀川右岸・一津屋取水口から分派しています。この分派により平常時において河川浄化用として10m<sup>3</sup>/sの水が神崎川に供給されています。</p> <p>河川の水利用においては、神崎川では工業用水および上水として利用されており、安威川流域等の上流域では、主に田畑などへのかんがい用水として利用されています。</p> <p>また、神崎川ブロックでは平成6年や平成12年をはじめとし、過去に幾度となく多くの渇水を経験しています。渇水による影響には、農業用水に代表される水利用への悪影響だけでなく、瀬切れ(瀬枯れともいう)が発生することによる自然環境への負荷などが考えられるほか、流量が少なくなることによる水質の悪化も考えられることから、維持流量の確保が求められています。</p>	<p>神崎川及びその他支川においては、市街地やその近傍の貴重な水辺空間であることを考慮し、生態系が保全でき、安全でうるおいのある街づくりの核となるよう努めます。</p> <p>施設管理者と協議しながら、既存の取水施設等の機能維持を図ります。また、関係機関、住民と一体となって水質の維持改善に努めます。</p> <p>また、平常時の水量については、森林の保護、水循環の適正な管理などにより今後も確保に努めるものとします。</p> <p>また、安威川ダムにおいては、安威川にふさわしいダムからの適切な放流を行い、下流河川の自然環境の保全に努めます。</p>	<p>流水の正常な機能を維持し適正な河川管理を行うため、継続的な雨量、水位の観測データの蓄積と分析による水量の状況把握や取水堰等の流水の利用実態の把握に努めます。</p> <p>安威川ダムでは、下流河道における水生生物の生息環境の保全のために、環境改善放流計画、土砂還元計画及びモニタリング計画を検討した上で、環境改善容量を利用した流況改善を図ります。</p> <p>神崎川の河川流水を清潔に保つことなどを目的とした、淀川から神崎川への導水については、関係機関と協議、調整を行い、今後も確保に努めます。</p>



平成6年 (国道171号上流地点)



平成12年 (千歳橋上流地点)

# 7. これからの神崎川ブロックでの取り組みについて

## 2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

神崎川ブロックにおける近年30年（昭和54年～平成20年）の流況表

河川名	地点名	流域面積 km <sup>2</sup>	豊水 流量 m <sup>3</sup> /s	平水 流量 m <sup>3</sup> /s	低水 流量 m <sup>3</sup> /s	渇水 流量 m <sup>3</sup> /s	平水流量/ 流域面積 m <sup>3</sup> /s/km <sup>2</sup>
安威川	桑原橋	52.2	1.48	0.84	0.56	0.32	0.016
	千歳橋	96.9	1.91	1.02	0.64	0.27	0.011

豊水流量・平水流量・低水流量・渇水流量は、一年を通じての日流量を大きい方から小さい順に並び替えて算出し、それぞれ次のように示している。

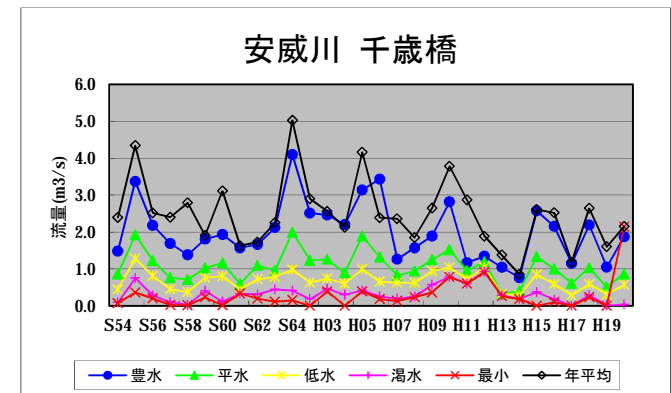
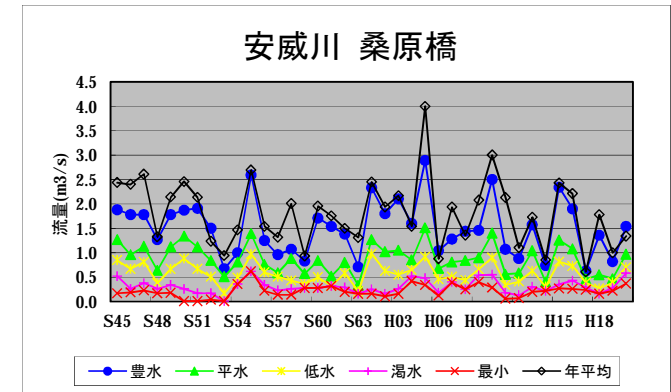
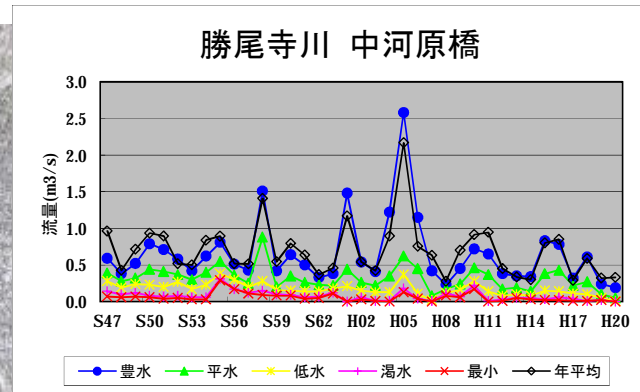
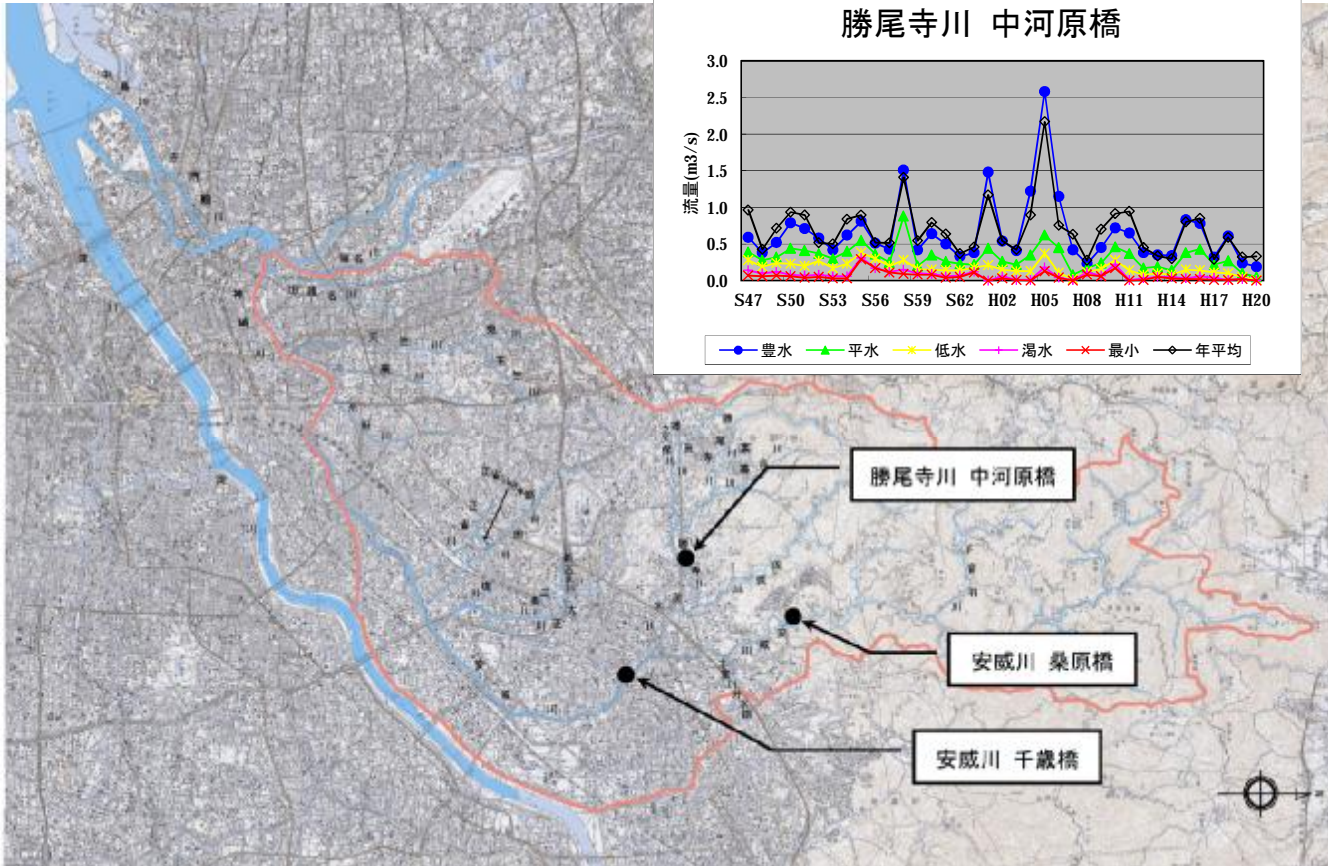
**[豊水流量]** 一年を通じて95日はこれを下らない流量を言う。

**[平水流量]** 一年を通じて185日はこれを下らない流量を言う。

**[低水流量]** 一年を通じて275日はこれを下らない流量を言う。

**[渇水流量]** 一年を通じて355日はこれを下らない流量を言う。

大塚

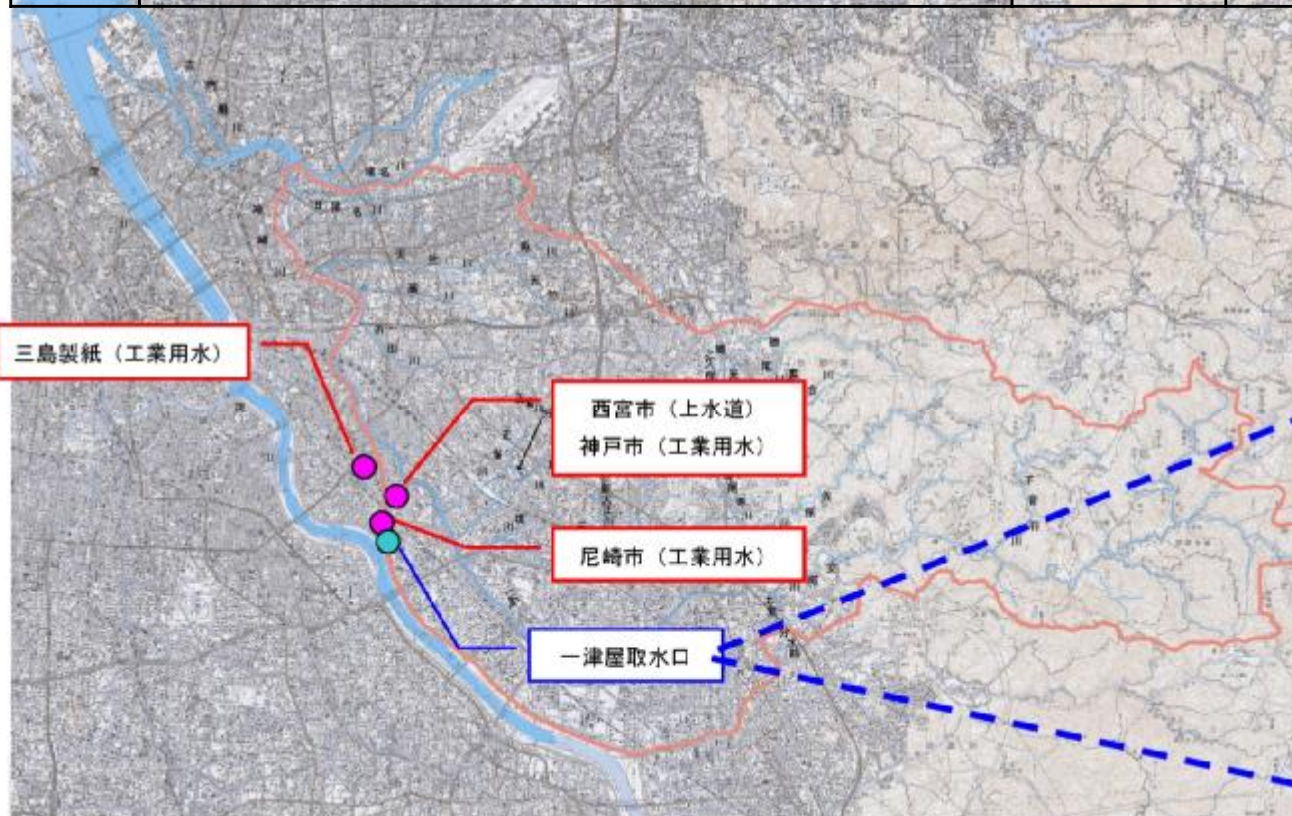


# 7. これからの神崎川ブロックでの取り組みについて

## 2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

神崎川ブロックの許可水利権一覧

河川	取水場所	取水者 届出者	種類	取水量 (m <sup>3</sup> /s)	備考
神崎川	北江口 2丁目333番の1地先	西宮市	上水道	0.136	淀川に水利権が存在（国許可）
		神戸市	工業用水	1.323	
	北江口 4丁目350番地先	尼崎市	工業用水	1.762	
	東淀川区南江口町 1丁目59番地先	三島製紙	工業用水	0.045	
	合計			3.266	





# 7. これからの神崎川ブロックでの取り組みについて

## 2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

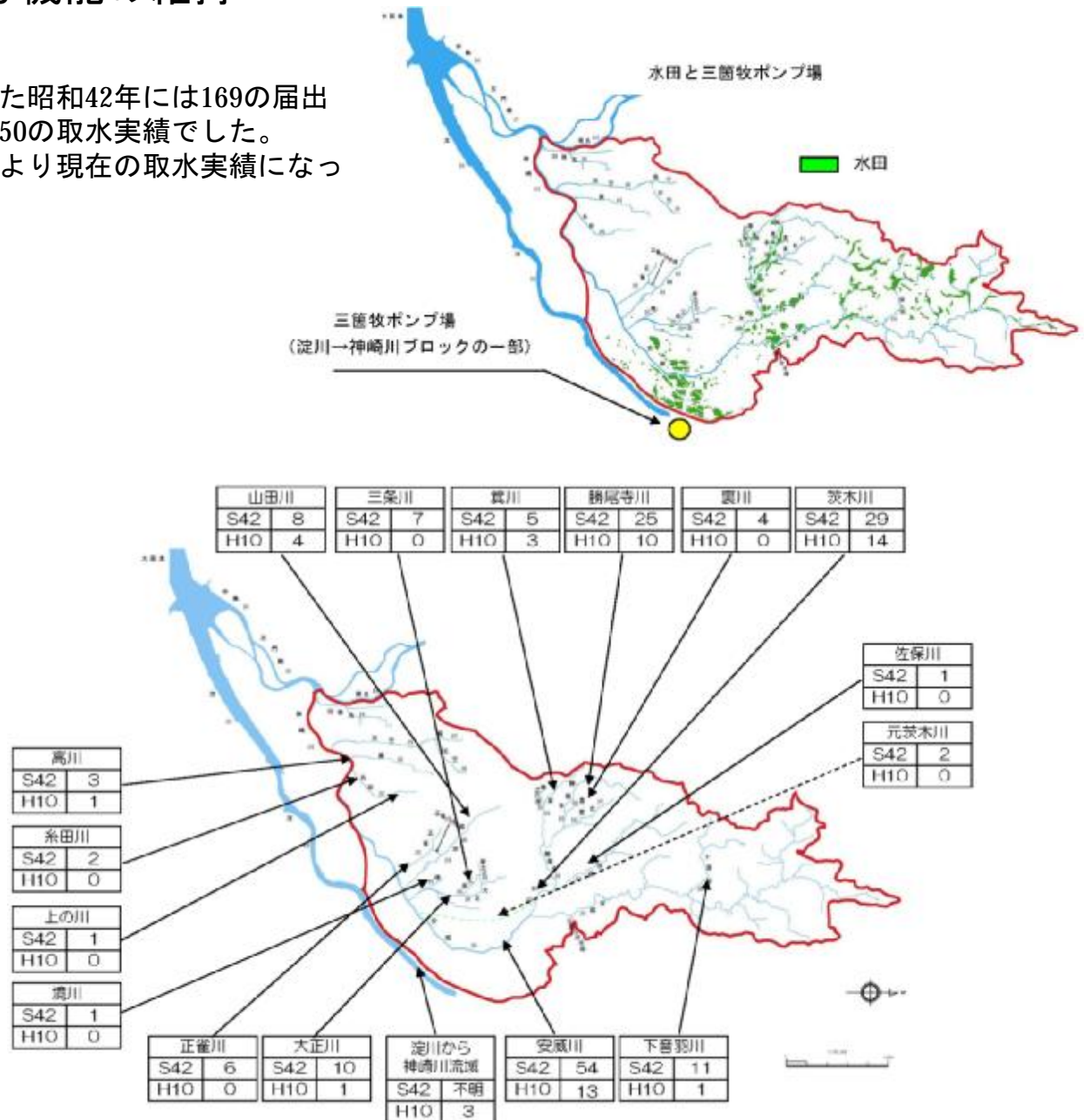
### 慣行水利権の届出調査・農業用水実態調査

河川法施行に伴う慣行水利権の届出調査が行われた昭和42年には169の届出がありましたが、平成10年の農業用水実態調査では50の取水実績でした。

取水堰の統廃合や農地から宅地等への転用などにより現在の取水実績になったと考えられます。

届出件数と取水実績

河川	昭和42年	平成10年
安威川	54	13
糸田川	2	0
上の川	1	0
高川	3	1
正雀川	6	0
大正川	10	1
山田川	8	4
三条川	7	0
境川	1	0
茨木川	29	14
元茨木川	2	0
佐保川	1	0
勝尾寺川	25	10
裏川	4	0
箕川	5	3
下音羽川	11	1
淀川から神崎川流域へ	不明	3
合計	169	50

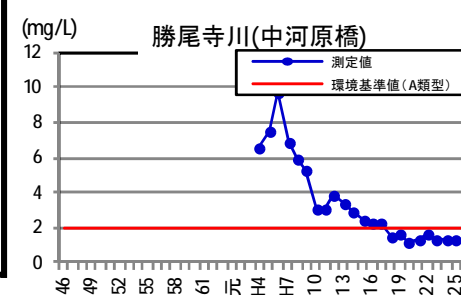
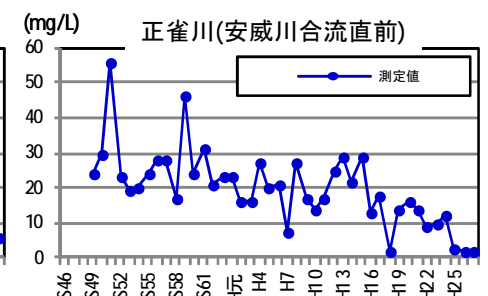
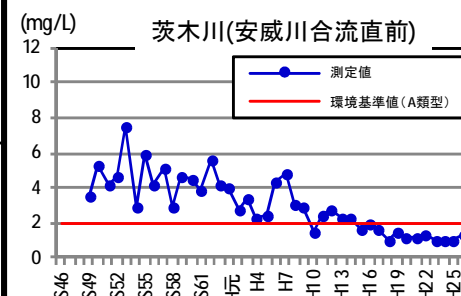
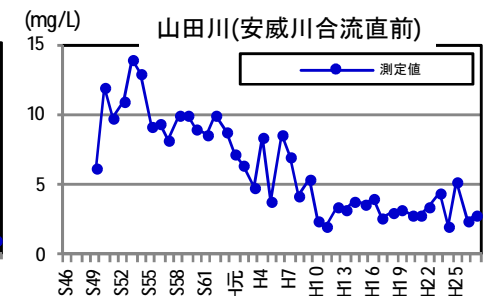
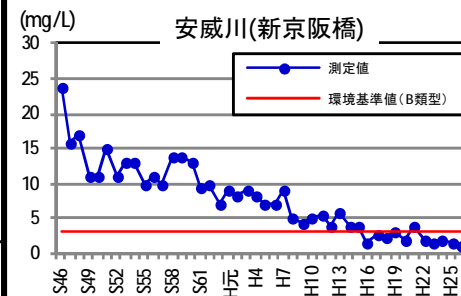
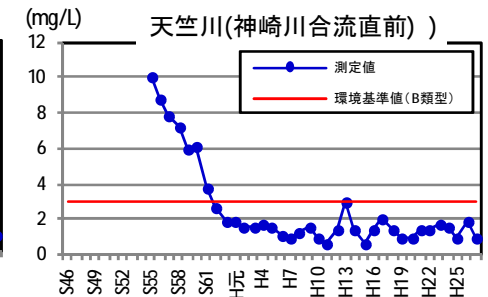
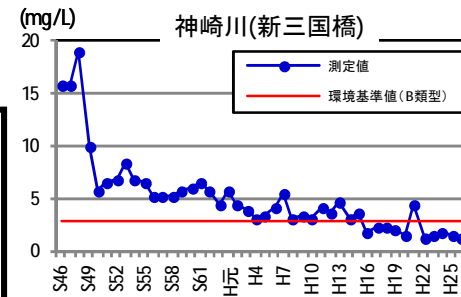


# 7. これからの神崎川ブロックでの取り組みについて

## 3. 河川環境の整備と保全

### (1) 水質

<p>現状</p>	<p>神崎川ブロックにおける公共水域の水質測定地点における平成23年度から27年度までの5年間のBOD75%値は、A類型に指定されている安威川、佐保川、茨木川、大正川、勝尾寺川の6地点ではいずれも2mg/L以下、B類型に指定されている神崎川、安威川、天竺川の4地点ではいずれも3mg/L以下と、環境基準を満足する良好な水質で推移しています。また、類型指定がされていない山田川ではH25年度に5.3mg/L、正雀川ではH24年度に12mg/Lでしたが、平成26年度以降はいずれも3mg/L以下の良好な水質となっています。</p>
<p>目標</p>	<p>下水道等の関係機関や、地域住民と連携し、良好な水質の維持を目指します。また河川で活動している地域住民等と連携し、河川美化、環境教育を通じた住民の意識啓発などにより水質の維持、改善を目指します。</p>
<p>実施</p>	<p>環境基準を満足することはもとより、多様な生物の生息・生育・繁殖環境を保全するため、流域市の環境部局による行政指導や下水道接続を促進し、河川への生活排水の流入の削減に努めます。また、関係機関や地域住民、学校等と連携し、水質の維持・改善に向けた環境学習、啓発活動を進めます。 神崎川においては、ダイオキシン類による環境汚染状況のモニタリングを継続し、「大阪府河川及び港湾の底質浄化審議会」の検討を踏まえ、浄化・改善のための対策を進めます。</p>



水質調査結果

# 7. これからの神崎川ブロックでの取り組みについて

## 3. 河川環境の整備と保全

### (2) 空間利用

現状・課題	目標	実施
<p>多目的広場などの親水公園が数多くあり、都市域における貴重なオープンスペースとして豊かな市民生活を実現するため広く利用されています。河川を利用して「震災時に必要な物資」を荷揚げしたり、「救命・救急活動」を行ったりする施設として防災船着場を整備しています</p> <p>安威川上流や下音羽川の安威川合流点付近では、内水面漁業権が設定され、漁業組合により、アユ・マスが放流されて、遊漁が行われています。今後は人びとが川に親しみ、学べる空間を創出することにより、人と川のつながりをより深めることが重要です。また周辺のまちづくりと一体となった川づくりを行い、市民との協働を行いながら、生活に密着した川を目指す必要があります。また、安威川ダム周辺において、府民のレクリエーション需要に応えるとともに、水源地域の振興、地域間交流の活性化につなげる必要があります。</p>	<p>河川に親しみ、ふれあい活動の場にするため、関係機関や地域住民と連携し、散策路や川に近づくための階段等の整備を図るなど、川と人との豊かなふれあい活動の場の維持・形成を目指します。</p> <p>また、豊かな河川環境は重要な地域資源であり、良好な景観を維持・形成するため、川の周辺も含めた空間を考え、景観に配慮した材料を採用するなど、周辺環境との調和を目指します。また、関係機関や地域住民と連携し、地域住民が愛着を持てる空間づくりを目指します。</p>	<p>ブロック内の空間利用が活発に行われていることから、地域住民の利用ニーズを踏まえ、河道内へのアクセスの改善などに努めるとともに、市街地においては貴重なオープンスペースとして利用の促進を図ります。併せて河川利用者の水難事故の防止のため、引き続き利用者への注意喚起等に努めます。</p>



神崎川親水公園



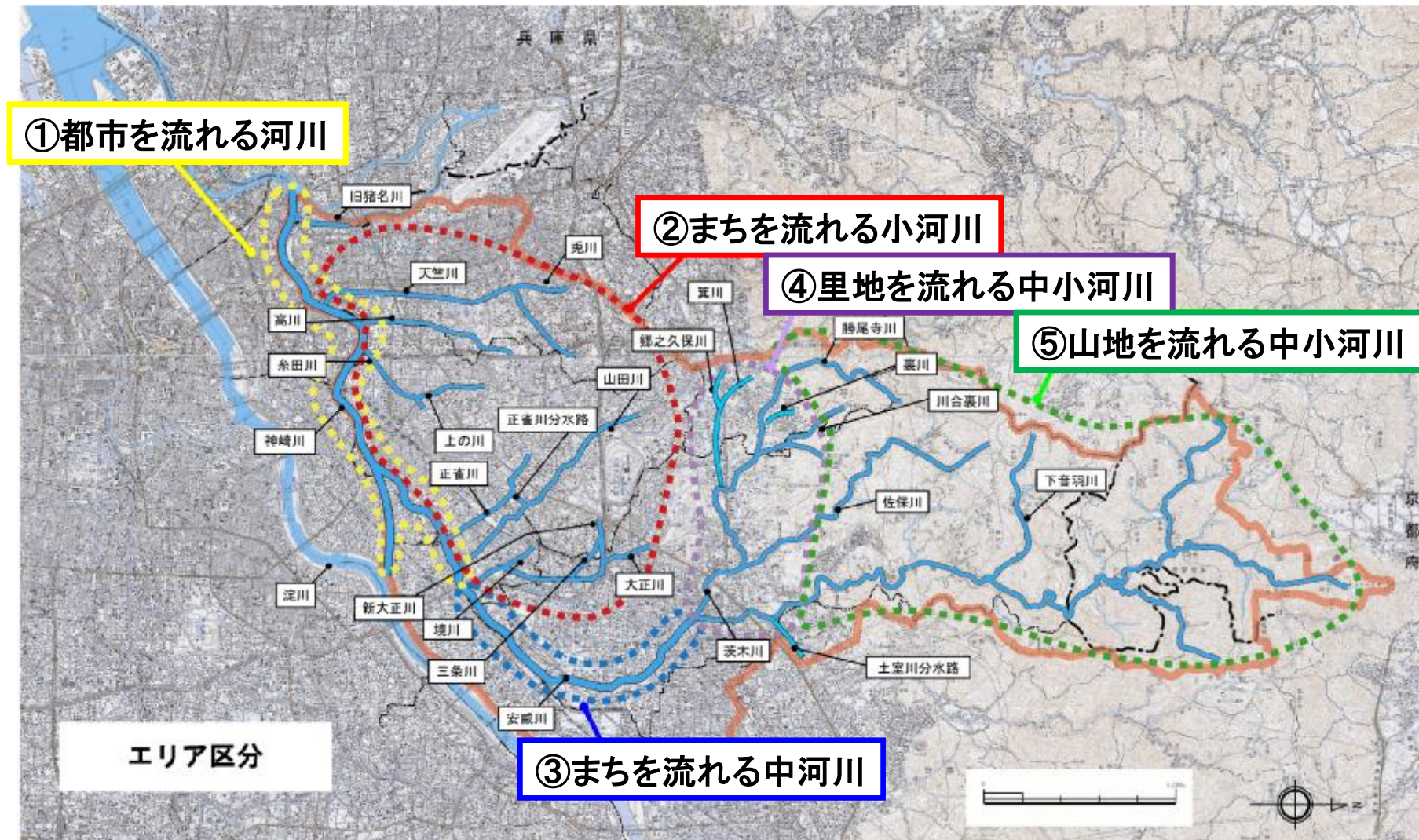
なにわ自転車道

# 7. これからの神崎川ブロックでの取り組みについて

## 3. 河川環境の整備と保全

### (3) 自然環境

神崎川ブロックは山地から市街地まで様々な特性を備えたブロックであり、5つのエリアに区分する。



# 7. これからの神崎川ブロックでの取り組みについて

## 3. 河川環境の整備と保全

### (3) 自然環境

現状・課題	目標	実施
<p><b>①都市を流れる河川</b> 沿川は市街化が進み、河道は堤防とコンクリート護岸で整備されています。一部を除き、生息環境が単調であるため、生物の種が貧困となっています。</p>	<p>都市空間としての景観及び親水性向上に努めるとともに、生物の生息・生育環境の向上を目指します。</p>	<p>瀬や淵、河道内の植生など良好な自然環境が見られる箇所もあり、河川整備にあたっては河床の平坦化を避け、瀬や淵、水際植生など、動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出に努めます。上下流の連続性の確保については、回遊性生物の生息状況を踏まえ、実現性、必要性、流域市や地域住民の意見等を考慮した上で、総合的に魚道設置等の検討を行います。</p>
<p><b>②まちを流れる小河川</b> 昭和30年代の丘陵開発により急激に都市化が進んだ地域です。一部を除き、生息環境が単調であるため生物の種が貧困となっています。</p>	<p>生物が生息・生育できる多様な環境の創出と周辺緑地や水辺空間との連携を目指します。</p>	
<p><b>③まちを流れる中河川</b> 河岸は兩岸ともコンクリート護岸となっていますが、高水敷は遊歩道として整備されています。比較的多くの生物種が生息しています。</p>	<p>瀬と淵の保全を図ります。また、河岸植生の保全を図り、緑地軸として高水敷利用への配慮を行います。</p>	
<p><b>④里地を流れる中小河川</b> 河川は改修済みの区間が大部分であり、コンクリート護岸の断面が多くなっています。場所によっては魚巢ブロックが置かれたり、蛇籠が川底に敷き詰められたりしています。周辺に水田や樹林があり、川と背後地の連続した環境が維持されています。</p>	<p>都市近郊の残された貴重な自然環境の保全や、田園風景との調和に配慮した整備を進めていきます。すでに護岸整備が行われている区間については、親水機能の向上に努めます。</p>	
<p><b>⑤山地を流れる中小河川</b> 山付け部の河畔林が連続し、瀬・淵の連続が見られるなど、多様な生物の生息環境が残されています。豊かで良好な自然環境が残されています。</p>	<p>自然環境の保全に配慮し、周辺景観と一体となった河川整備に努めます。 安威川ダム建設予定地の周辺には多様な自然環境があるため、動植物の生息環境の保全、新たに出現する水環境の保全・創出、地域との連携、自然環境豊かな流域の育成、を基本目標として環境保全に努め、都市近郊の貴重な空間としての利用を図ります。</p>	

## 7. これからの神崎川ブロック流域での取り組みについて

### 河川情報の提供

- Ⅰ 河川氾濫や浸水に対しては、住民が的確に避難行動をとれるよう、水害に強い地域づくり協議会や流域市町と連携した情報提供の実施
- Ⅰ 情報提供にあたっては、行政からの一方的なものにとどまらず、地域特性に応じたものとなるよう、ワークショップ等を通じて、地域住民からの過去の浸水被害等の情報を取り入れ構築

### 具体的な取り組み

- ① 様々な降雨による地先の危険度をわかりやすく周知する洪水リスク表示図の公表
- ② 地域単位でのワークショップの開催等による地域住民へ洪水リスクの周知
- ③ 過去の災害実績や避難経路の確認（防災マップ作成、簡易型図上訓練等）
- ④ 住民が自ら行動できる避難体制づくり（自主防災組織の設立、防災リーダー育成等）



天竺川流域懇談会開催の様子



# 7. これからの神崎川ブロック流域での取り組みについて

## 2) 大阪府などによる情報提供

1 大阪府では、河川のはん濫や浸水に対して、流域関係市と連携し、府民が的確に避難行動を取れるよう情報提供をしていきます。

### 防災情報

#### 【おおさか防災ネット】

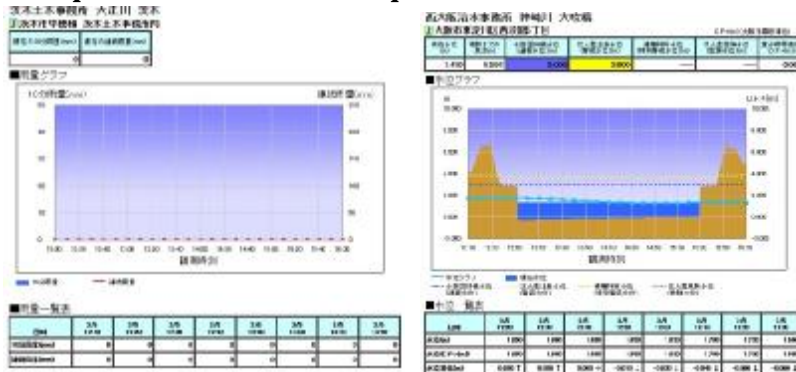
<http://www-cds.osaka-bousai.net/pref/index.html>



緊急情報、避難勧告・指示、地震津波情報などを提供しています。

#### 【大阪府都市整備部河川室 河川防災情報】

<http://www.osaka-kasen-portal.net/suibou/index.html>



神崎川ブロック流域の雨量、流域内主要河川の水位状況などを確認できます。

地防災情報を携帯電話で入手できます。下のQRコードを携帯電話で読み込むか、下記アドレスを入力し、空メールを送信してください。

#### 防災情報メール

地域に発令された警報・注意報、避難勧告など、防災情報をメールで携帯にお知らせします。  
[touroku@osaka-bousai.net](mailto:touroku@osaka-bousai.net)



#### 川の防災情報

雨雲の動きや全国の川の水位などの情報を携帯電話で入手できます。  
<http://i.river.go.jp/>  
直接アクセスしてください。



#### 大阪府河川情報

身近な河川の水位や雨量の情報を携帯電話で入手できます。  
<http://www.osaka-kasen-portal.net/suibou/mobile/index.html>

直接アクセスしてください。

